

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年6月25日

**【事業年度】** 第76期(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

**【会社名】** 鬼怒川ゴム工業株式会社

**【英訳名】** KINUGAWA RUBBER INDUSTRIAL CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 関山定男

**【本店の所在の場所】** 千葉県千葉市稲毛区長沼町330番地

**【電話番号】** 043-259-3114

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 嶋津智昭

**【最寄りの連絡場所】** 千葉県千葉市稲毛区長沼町330番地

**【電話番号】** 043-259-3114

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 嶋津智昭

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高 (千円)	64,579,280	70,611,516	66,221,799	74,543,568	76,135,763
経常利益 (千円)	7,486,151	8,555,240	7,046,424	8,084,908	7,419,355
当期純利益 (千円)	4,467,894	5,300,270	3,975,454	4,694,301	4,289,397
包括利益 (千円)	4,188,724	5,426,491	5,398,985	7,528,678	7,695,428
純資産額 (千円)	16,847,484	21,625,740	26,332,764	31,535,005	38,021,275
総資産額 (千円)	42,379,837	46,713,128	49,073,134	61,038,933	71,371,598
1株当たり純資産額 (円)	236.50	312.59	379.58	453.90	546.67
1株当たり当期純利益 (円)	66.56	79.16	59.13	69.83	63.81
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	59.10	69.73	63.66
自己資本比率 (%)	37.5	45.0	52.0	50.0	51.5
自己資本利益率 (%)	31.9	28.7	17.1	16.8	12.8
株価収益率 (倍)	6.3	8.1	8.0	6.1	8.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	6,533,843	5,941,962	3,138,392	5,790,696	4,851,103
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△1,187,957	△1,311,502	△3,585,505	△5,068,267	△5,159,040
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△5,732,367	△4,380,382	△228,107	250,357	1,629,699
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	2,574,988	2,821,659	2,959,755	4,424,339	6,173,518
従業員数 (名)	3,472	3,513	3,749	4,151	4,314

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 平成23年3月期及び平成24年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は就業人員を記載しております。なお、臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため、その平均臨時雇用者数の外書記載を行っておりません。

4 平成24年3月期より、在外連結子会社等の収益及び費用は、期中平均相場により円貨に換算し処理しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、平成23年3月期の連結財務諸表について遡及処理しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次		第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月		平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高	(千円)	41,102,898	44,005,244	37,866,092	37,052,990	33,960,551
経常利益	(千円)	3,587,858	4,668,407	4,639,934	3,902,957	3,793,963
当期純利益	(千円)	2,335,782	2,395,090	3,384,349	2,975,022	2,745,686
資本金	(千円)	5,654,585	5,654,585	5,654,585	5,654,585	5,654,585
発行済株式総数	(株)	67,299,522	67,299,522	67,299,522	67,299,522	67,299,522
純資産額	(千円)	12,750,713	15,196,367	17,951,335	20,421,513	21,978,135
総資産額	(千円)	28,215,707	31,819,269	32,459,465	36,168,028	40,989,214
1株当たり純資産額	(円)	189.96	226.01	266.60	302.94	325.68
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額)	(円) (円)	5.00 (—)	6.00 (—)	8.00 (4.00)	9.00 (4.00)	10.00 (5.00)
1株当たり当期純利益	(円)	34.80	35.77	50.34	44.25	40.85
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	—	—	50.31	44.19	40.75
自己資本比率	(%)	45.2	47.8	55.2	56.3	53.4
自己資本利益率	(%)	19.9	17.1	20.4	15.5	13.0
株価収益率	(倍)	11.8	17.9	9.4	9.7	12.8
配当性向	(%)	14.4	16.8	15.9	20.3	24.5
従業員数	(名)	283	282	287	285	292

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 平成23年3月期及び平成24年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は就業人員を記載しております。なお、臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため、その平均臨時雇用者数の外書記載を行っておりません。

## 2 【沿革】

昭和14年10月	自動車部品、その他ゴム製品の製造会社として、東京都江戸川区平井に鬼怒川護謨工業株式会社を創立。資本金7万円。
昭和36年7月	鬼怒川ゴム工業株式会社と商号変更。
昭和37年5月	千葉県千葉市に千葉工場新設、操業開始。
昭和37年7月	東京証券取引所市場第2部に上場。
昭和39年5月	本店所在地を千葉市に移転。
昭和41年12月	名取ゴム工業株式会社を合併。
昭和42年7月	輸出用ゴム玩具及び水中スポーツ用品部門を鬼怒川パシフィック㈱へ営業譲渡。
昭和46年3月	台湾桃園県に現地資本と合弁で中光橡膠工業股分有限公司を設立。(現・連結子会社)
昭和46年3月	栃木県真岡市に真岡工場新設、操業開始。
昭和52年3月	大分県中津市に九州工場新設、操業開始。
昭和53年9月	東京証券取引所市場第1部に上場。
昭和55年5月	関連企業3社との共同出資によりナリタ合成㈱を設立。(現・連結子会社)
昭和55年5月	千葉県千葉市に子会社コオニ運輸㈱(現・ケイジー物流㈱)を設立。(現・連結子会社)
昭和60年8月	CKRインダストリーズ・インク(平成13年1月よりTEPRO, INC.に商号変更)をテネシー州ウインチェスター市に設立。(現・連結子会社)
平成4年1月	福島県郡山市に子会社㈱郡山キヌガワを設立。
平成5年8月	当社子会社中光橡膠工業股分有限公司が、香港に全額出資子会社「星光橡塑發展有限公司」を設立。(現・連結子会社)
平成6年1月	星光橡塑發展有限公司が、中国天津市に現地資本と合弁で「天津星光橡塑有限公司」を設立。(現・関連会社)
平成8年8月	星光橡塑發展有限公司が、中国福州市に全額出資子会社「福州福光橡塑有限公司」を設立。(現・連結子会社)
平成9年9月	千葉工場閉鎖・跡地売却。
平成9年9月	㈱郡山キヌガワを解散、郡山工場として操業。
平成11年9月	東洋ゴム工業㈱と資本・業務提携契約を締結。
平成12年3月	千葉市稲毛区に子会社㈱キヌテックを設立。(現・連結子会社)
平成13年6月	タイ国に合弁子会社KINUGAWA(Thailand)CO.,LTD.を設立。(現・連結子会社)
平成13年9月	国内3工場(郡山、九州、真岡)を生産委託会社として分社化し、福島県郡山市に㈱キヌガワ郡山、大分県中津市に㈱キヌガワ大分、栃木県真岡市に㈱キヌガワ防振部品及び㈱キヌガワブレーキ部品を設立。(現・連結子会社)
平成16年1月	山口県周南市に子会社エスイーシー化成㈱を設立。(現・連結子会社)
平成16年5月	帝都ゴム㈱の株式を追加取得。(現・連結子会社)
平成17年6月	八洲ゴム工業㈱の株式を取得。(現・連結子会社)
平成17年7月	天津星光橡塑有限公司の持分を一部譲渡により持分法適用関連会社へ異動。
平成18年11月	中国広州市に子会社鬼怒川橡塑(広州)有限公司を設立。(現・連結子会社)
平成19年6月	タイ国のCPR GOMU IND. P. C. L.の株式を取得。(現・連結子会社)

平成22年5月	メキシコ国グアナフアト州に子会社KINUGAWA MEXICO, S. A. DE C. V. を設立。 (現・連結子会社)
平成22年6月	中国大連市に子会社鬼怒川(大連)摸具開発有限公司を設立。
平成22年12月	中国蕪湖市に子会社鬼怒川橡塑(蕪湖)有限公司を設立。(現・連結子会社)
平成24年3月	インドネシア国西ジャワ州にPT. KINUGAWA INDONESIAを設立。(現・連結子会社)
平成24年12月	インド国タミルナドゥ州にKinugawa Rubber India Private Limitedを設立。
平成24年12月	中国鄭州市に子会社鬼怒川橡塑(鄭州)有限公司を設立。
平成25年6月	ロシアウドムルト共和国イジェフスク市に子会社Limited Liability company Kinugawa RUSを設立。
平成25年11月	ブラジル国リオデジャネイロ州に子会社KINUGAWA BRASIL Ltda. を設立。

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社35社及び関連会社3社で構成されており、自動車用並びにその他の使用に供するゴム及び合成樹脂製品の製造販売を主な内容とした事業活動を展開しております。

また、日産自動車㈱はその他の関係会社であり、主要な得意先であります。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

#### (日本)

当社は、自動車用並びにその他の使用に供するゴム及び合成樹脂製品の製造販売を行っております。

子会社の㈱キヌガワ郡山、㈱キヌガワ大分及び佐藤ゴム化学工業㈱で車体シール部品を製造しており、当社で仕入れて販売しております。

子会社のナリタ合成㈱及び㈱キヌガワ防振部品で防振部品を製造しており、当社で仕入れて販売しております。

子会社の㈱キヌガワブレーキ部品がブレーキ・型物部品、帝都ゴム㈱がホース部品を製造しており、当社で仕入れて販売しております。

子会社のエスイーシー化成㈱がゴム精練生地品の製造販売、八洲ゴム工業㈱が建設機械用部品の製造販売を行っております。

子会社のケイジー物流㈱が荷役、保管及び輸送業務を行い、㈱キヌテックが金型・治工具の製造販売、関連会社の㈱根本精機が機械設備の製造販売を行っております。

#### (米州)

子会社のTEPRO, INC. が車体シール部品を製造販売しております。

子会社のKINUGAWA MEXICO, S. A. DE C. V. が車体シール部品、防振部品及びホース部品を製造販売しております。

#### (アジア)

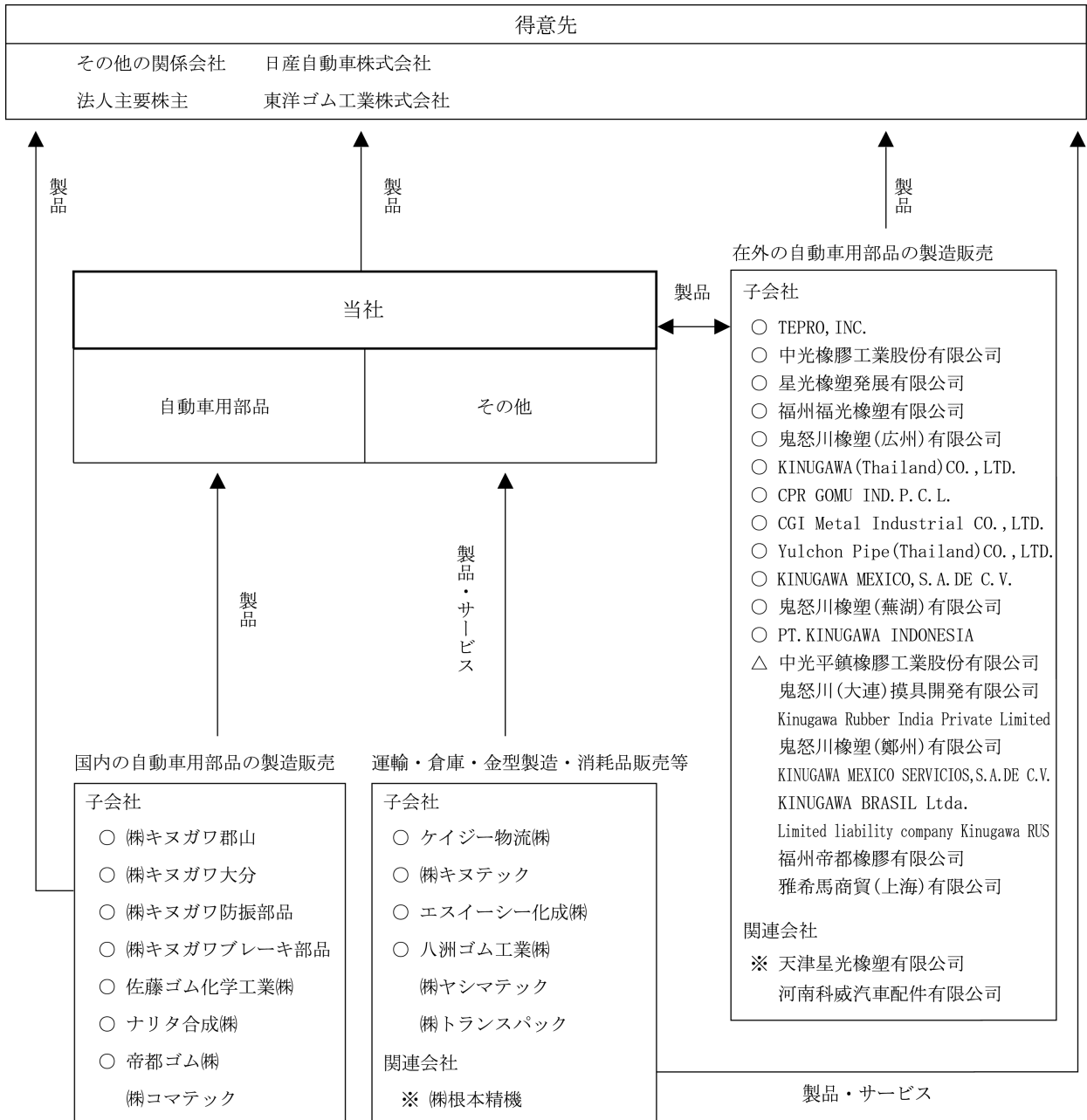
子会社の中光橡膠工業股分有限公司、福州福光橡塑有限公司、鬼怒川橡塑(広州)有限公司、PT. KINUGAWA INDONESIA及び関連会社の天津星光橡塑有限公司が、車体シール部品を製造販売しており、一部は当社で仕入れて販売しております。

子会社の鬼怒川橡塑(蕪湖)有限公司が車体シール部品及び防振部品を製造販売しております。

子会社のKINUGAWA(Thailand) CO., LTD. が車体シール部品、防振部品及びホース部品を製造販売しております。

子会社のCPR GOMU IND. P. C. L. が防振部品を製造販売しており、一部は当社で仕入れて販売しております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



○ 連結子会社 ※ 持分法適用関連会社 △ 持分法適用非連結子会社

## 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (千円)	主要な 事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合		役員の兼任		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	当社役員 (名)	当社 従業員 (名)	
(連結子会社)								
㈱キヌガワ郡山	福島県 郡山市	100,000	車体シール部品部門 (日本)	100.0	—	兼任 1	兼任 3	当社製品の製造委託 資金援助・固定資産 の賃貸
㈱キヌガワ大分	大分県 中津市	100,000	車体シール部品部門 (日本)	100.0	—	兼任 1	兼任 3	当社製品の製造委託 資金援助・固定資産 の賃貸
㈱キヌガワ防振部品	栃木県 真岡市	100,000	防振部品部門 (日本)	100.0	—	兼任 2	兼任 2	当社製品の製造委託 資金援助・固定資産 の賃貸
㈱キヌガワブレーキ部品	栃木県 真岡市	100,000	ブレーキ・型物部品 部門 車体シール部品部門 (日本)	100.0	—	兼任 1	兼任 3	当社製品の製造委託 資金援助・固定資産 の賃貸
佐藤ゴム化学工業㈱	千葉県 成田市	100,000	車体シール部品部門 その他製品部門 (日本)	100.0	—	兼任 2	兼任 1	当社製品の製造委託
ナリタ合成㈱	千葉県 成田市	70,000	防振部品部門 (日本)	100.0	—	兼任 2	兼任 3	当社製品の製造委託
帝都ゴム㈱	埼玉県 入間市	100,000	ホース部品部門 (日本)	100.0	—	兼任 2		当社製品の製造委託
ケイジー物流㈱	千葉県 稲毛区	100,000	その他事業部門 (日本)	100.0	—	兼任 1	兼任 2	当社製品の運輸・ 倉庫業務委託 消耗品の購入
㈱キヌテック	千葉県 稲毛区	100,000	その他事業部門 (日本)	100.0	—	兼任 1	兼任 2	金型・治工具の購入
エスイーシー化成㈱	山口県 周南市	100,000	その他製品部門 (日本)	100.0	—		兼任 1 出向 1	ゴム精練生地の販売
八洲ゴム工業㈱	福島県 河沼郡	80,000	その他製品部門 (日本)	100.0	—	兼任 2		建設機械用部品等の 製造・販売
TEPRO, INC. (注) 1, 8	米国 テネシー州 ウインチェ スター市	千US\$ 40,000	車体シール部品部門 (米州)	100.0	—		兼任 1 出向 1	当社製品の製造 技術援助・債務保証 資金援助
KINUGAWA MEXICO, S. A. DE C. V. (注) 1	メキシコ国 グアナフア ト州	千ペソ 291,703	車体シール部品部門 防振部品部門 ホース部品部門 (米州)	100.0	—	兼任 1	出向 1	当社製品の製造 技術援助・債務保証
中光橡膠工業股分 有限公司 (注) 1	台湾 桃園県	千NT\$ 261,004	車体シール部品部門 防振部品部門 (アジア)	83.3	—		兼任 4 出向 1	技術援助
星光橡膠発展有限公司 (注) 1	中国 香港	千HK\$ 56,456	—	100.0	—	兼任 1	兼任 1	中国における子会社 への投資
福州福光橡膠有限公司 (注) 1, 2	中国 福州市	千RMB 68,509	車体シール部品部門 (アジア)	98.4 (71.7)	—		兼任 3 出向 1	当社製品の製造委託 技術援助
鬼怒川橡膠(広州) 有限公司 (注) 1, 7	中国 広州市	千RMB 43,024	車体シール部品部門 (アジア)	100.0	—	兼任 1	兼任 4 出向 1	当社製品の製造 技術援助
鬼怒川橡膠(蕪湖) 有限公司	中国 蕪湖市	千RMB 31,239	車体シール部品部門 (アジア)	100.0	—	兼任 1	兼任 3 出向 1	当社製品の製造 技術援助
KINUGAWA (Thailand) CO., LTD.	タイ国 アユタヤ県	千バーツ 100,000	車体シール部品部門 防振部品部門 ホース部品部門 (アジア)	94.0 (19.0)	—	兼任 2	出向 2	当社製品の製造委託 技術援助・債務保証
CPR GOMU IND. P. C. L. (注) 1, 4	タイ国 アユタヤ県	千バーツ 199,000	防振部品部門 (アジア)	49.0	—	兼任 1	兼任 2 出向 1	当社製品の製造委託 技術援助
PT. KINUGAWA INDONESIA	インドネシ ア国 西ジャワ州	千IDR 113,625	車体シール部品部門 (アジア)	100.0	—	兼任 1	兼任 2 出向 1	当社製品の製造 技術援助・債務保証
その他2社	—	—	—	—	—	—	—	—
(持分法適用関連会社)								
㈱根本精機	千葉県 稲毛区	32,000	その他事業部門 (日本)	25.0	—		兼任 1	機械設備の購入
天津星光橡膠有限公司	中国 天津市	千RMB 67,497	車体シール部品部門 (アジア)	49.0 (42.0)	—		兼任 3 出向 1	技術援助
(その他の関係会社)		(百万円)						
日産自動車㈱ (注) 3, 6	横浜市 神奈川区	605,813	自動車及び自動車 部品の製造・販売	—	20.4			当社製品の販売

- (注) 1 特定子会社であります。  
 2 福州福光橡塑有限公司は、星光橡塑発展有限公司が71.7%、当社が26.7%出資した子会社であります。  
 3 有価証券報告書提出会社であります。  
 4 CPR GOMU IND. P.C.L. は、当社が49.0%保有しており、実質的に支配していることから子会社となります。  
 5 「議決権の所有(被所有)割合」欄の(内書)は間接所有であります。  
 6 日産自動車(株)の議決権の被所有割合20.4%については、退職給付信託口座であります。  
 7 鬼怒川橡塑(広州)有限公司については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	① 売上高	9,352,180千円
	② 経常利益	1,977,754 "
	③ 当期純利益	1,484,593 "
	④ 純資産額	7,702,113 "
	⑤ 総資産額	10,740,362 "

- 8 TEPRO, INC. については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	① 売上高	8,758,685千円
	② 経常利益	113,389 "
	③ 当期純利益	29,231 "
	④ 純資産額	△123,656 "
	⑤ 総資産額	5,486,835 "

## 5 【従業員の状態】

### (1) 連結会社の状況

平成27年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	1,555
米州	898
アジア	1,861
合計	4,314

- (注) 従業員数は就業人員であります。臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため、その平均臨時雇用人員の外書記載は行っておりません。

### (2) 提出会社の状況

平成27年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
292	45.3	20.9	6,285

事業部門の名称	従業員数(名)
車体シール部品部門	122
防振部品部門	10
ブレーキ・型物部品部門	34
管理部門	126
合計	292

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
 2 平均年間給与(税込み)は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

当社及び一部の国内連結子会社の従業員は部品関連労働組合に加入し、同組合は全日産・一般業種労働組合連合会を通じ、全日本自動車産業労働組合総連合会に加盟しております。

労使関係は相互信頼の精神で生産性向上に協力しており、円満に推移しております。



## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、円安や原油安により輸出企業を中心とした業績改善は進んだものの、消費税増税による個人消費の低迷や中小企業の業績回復の遅れにより、やや停滞気味に推移いたしました。また、海外では米国の景気が好調に推移した一方で、中国の経済成長の鈍化やアジア諸国の一部で経済の低迷が続いております。

当社グループの主要得意先の自動車生産台数は、前年同期比で国内は約1割の減少、海外は中国が微減、米州が約1割の増加、グローバルでは微増となりました。

このような状況の下で、当社グループは今後の着実な成長に繋げるためブラジル、ロシア、中国鄭州、メキシコ工場拡張と新工場を操業開始させるとともに、メキシコ、タイ、インドで防振部品やホース部品の生産を開始させる年となりました。

当連結会計年度の売上高は、761億3千5百万円（前年同期比2.1%増）となりました。損益につきましては、原材料の現地調達化や、ベンチマーク拠点を目標にグローバル同一のモノ造りを目指した生産性向上などの活動に取り組み、さらに前連結会計年度に発生した米州・タイでの新車部品の生産立上げに伴う費用が大幅に改善したことにより安定的に収益を生み出す体制が整ってきました。一方で国内での生産台数減による操業度の減少などにより、営業利益は69億3千万円（前年同期比5.0%減）、経常利益は74億1千9百万円（前年同期比8.2%減）、当期純利益は42億8千9百万円（前年同期比8.6%減）となりました。

セグメント別の状況は、次のとおりであります。

#### [ 日本 ]

売上高は、主要得意先の自動車生産台数の減少により、433億6千1百万円（前年同期比4.9%減）となりました。営業利益は、操業度の低下と製品構成の変化により、39億7千6百万円（前年同期比15.1%減）となりました。

#### [ 米州 ]

売上高は、新規得意先からの受注獲得と主要取引先の自動車生産台数の増加及びメキシコ新工場での車体シール部品の生産能力拡大と防振部品、ホース部品の生産開始により、127億1千9百万円（前年同期比36.7%増）となりました。営業利益は、生産性向上や材料歩留りの改善活動などの効果により、1億3千4百万円の損失（前年同期は7億5百万円の損失）と大幅に改善しました。

#### [ アジア ]

売上高は、中国での主要得意先の自動車生産が減少したものの、ローカルカーメーカー向けの売上が増加したことにより、200億5千5百万円（前年同期比2.2%増）となりました。営業利益は、製品構成の変化や新拠点での立上げ費用などにより、30億5千3百万円（前年同期比4.5%減）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物は61億7千3百万円と、期首に比べて17億4千9百万円の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が70億6千7百万円、減価償却費22億3千5百万円、売上債権の増加25億3千9百万円、法人税等の支払額26億円などにより、48億5千1百万円の増加（前年同期は57億9千万円の増加）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得39億4千万円、投資有価証券の取得12億4千7百万円などにより、51億5千9百万円の減少（前年同期は50億6千8百万円の減少）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の増加23億7千2百万円、配当金の支払額7億1千4百万円などにより、16億2千9百万円の増加（前年同期は2億5千万円の増加）となりました。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは各納入先より生産計画の提示を受け、これに基づき当社グループ各社の生産能力を勘案して生産計画を立てており、すべて見込生産であります。

### (1) 販売実績

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
日本	43,361,072	△4.9
米州	12,719,303	36.7
アジア	20,055,387	2.2
合計	76,135,763	2.1

(注) 1 金額は販売価額によっており、消費税等は含まれておりません。

### 2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
東洋ゴム工業(株)	10,963,851	14.7	9,142,763	12.0
日産自動車(株)	10,245,314	13.7	8,374,498	11.0

## 3 【対処すべき課題】

今後につきましても目指す姿の達成に向けて、着実かつ持続的に成長するためにモノ造りと組織能力をグローバルに一層強化し、経営基盤の強化に取り組んでまいります。

また、お客様の信頼を高めることにより顧客満足度の向上に取り組んでまいります。

そのための重点活動として以下の取り組みをグローバルに展開してまいります。

- ① 短期収益の確保
- ② 売上の拡大
- ③ 仕事の質の改善

特に、売上の拡大につきましては、グローバルサプライヤーとして、今後も新規顧客を確保すべく、当社の海外生産拠点に近接している新規顧客への製品供給や、海外生産拠点で全商品群を供給できる体制を構築するとともに、日本国内はもとより当社グループが重点拠点として位置づけている各新興国で、顧客へ一歩先んじた提案を積極的に行い、拡販目標の達成に鋭意取り組んでまいります。

また、グループでの構造改革をこれまで以上に推進することで、利益の安定的な確保に努めてまいります。

## 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。また、必ずしも事業展開上のリスク要因に該当しない事項につきましても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項につきましては、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。当社はこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

### (1) 主要な得意先への依存

当連結会計年度における当社グループの連結売上高の約11%は日産自動車(株)に対するものであり、約55%が日産自動車(株)及び他の日産グループの会社全般に対するものであります。

そのため、日産自動車(株)との取引の状況により、当社グループの事業、業績及び財務状況は影響を受けることがあります。

## (2) 資材等の調達（天然ゴム、合成ゴム、合成樹脂等）

当社グループは、製品の製造に天然ゴム、合成ゴム及び合成樹脂等を主原材料として使用しております。そのため、天然ゴム、原油、為替等の市況が変動する局面では取引業者から価格引き上げを要請される可能性があります。

当社グループは、市況価格を注視しながら取引業者との価格交渉にあたっておりますが、市況が大幅に高騰した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (3) 海外市場での事業拡大について

当社グループは、海外市場での事業拡大を戦略の一つとしており、今後も生産拡大をはじめ海外事業のウエイトは高くなることを想定しております。

しかし、海外の政治経済情勢の変化によっては、当社グループの事業展開及び業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

## (4) 製品の欠陥について

当社グループは、製品の安全を最優先の課題として、開発から生産まで最善の努力を傾けております。製造物にかかる賠償責任保険については加入しておりますが、保険でカバーされないリスクもあり、また、顧客の安全のため大規模な市場対策を実施した場合などに、多額のコストが発生するなど、当社グループの業績及び財務状況に重大な影響を及ぼす可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

重要な業務提携は次のとおりであります。

契約会社名	相手方の名称	国名	内容	契約締結日
提出会社	東洋ゴム工業(株)	日本	防振ゴム部品の開発・販売・生産体制の連携・統合	1999年9月29日

## 6 【研究開発活動】

当社は自動車部品を中心としたゴム及び樹脂製品の専門メーカーとして、高性能・高品質・高付加価値等顧客ニーズを先取りした商品開発に取り組んでおり、特に地球環境問題を考慮したエラストマー材料・加工技術の開発に力を入れております。

また、新規分野への参入を図るべく、大学をはじめとする研究機関や異業種交流による共同研究活動を推進しております。

なお、当連結会計年度の研究開発費は10億6千3百万円であります。

セグメントごとの研究開発活動を示すと次のとおりであります。なお、米州及びアジアでの研究開発活動はありません。

(日本)

## 1 車体シール部品部門

- ・材料、構造、工法、工程が一体となった取り組みをグローバルで推進し、品質と価格競争力の高いボディシーリング製品の開発
  - ・環境への貢献の為に低比重かつ高剛性材料を開発し、超軽量ボディシーリング製品を世界中のお客様へ提供
  - ・意匠性向上、部品点数削減を目的とした機能部品のモジュール化製品の採用拡大
  - ・環境リサイクル性を考慮した高機能エラストマー材を採用した樹脂化製品の採用を拡大
  - ・グローバルで高いコスト競争力を維持する為に現地化の推進（一貫工程、サテライト工場の設置）、地域の特徴を生かした革新的物づくりと資材の現地調達体制の構築
- などに取り組み、研究開発費は6億2千3百万円であります。

## 2 プレーキ・型物部品部門

- ・軽量化ゴム材とTPV材を採用した型物部品の採用拡大
  - ・HEV車向け電気絶縁抵抗性を有したシール部品の開発
  - ・グローバル生産におけるコスト競争力向上としてオールツールの現地化促進
  - ・加工技術工程における外部委託から自社内製化の拡大（多段練り・溶着加工・金具加工等）
  - ・次世代プレーキカップ開発及び新工法、新材料の開発
  - ・デジタル開発技術（FEM解析）による開発日程、費用の低減
- などに取り組み、研究開発費は3億5千1百万円であります。

### 3 管理部門

設計品質向上を目的に車両データと当社部品との組み付けの検討ができ、かつ開発スピードアップをするために高性能な端末に更新等の環境整備、海外の取引先とのデータ交換を円滑に行なうための授受環境整備などに取り組み、研究開発費は8千9百万円であります。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在、入手可能な情報に基づき、当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成されております。

### (2) 当連結会計年度の財政状態及び経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高につきましては、主要得意先の自動車生産台数の増加や拡販、中国拠点でのローカルカーメーカー向けの増加により、761億3千5百万円と前年同期比で2.1%の増加となりました。

損益につきましては、原材料の現地調達化や、ベンチマーク拠点を目標にグローバル同一のモノ造りを目指した生産性向上などの活動に取り組み、さらに前連結会計年度に発生した米州・タイでの新車部品の生産立上げに伴う費用が大幅に改善したことにより安定的に収益を生み出す体制が整ってきました。一方で国内での生産台数減による操業度の減少などにより、前連結会計年度に比べ営業利益は3億6千2百万円減少の69億3千万円、経常利益は6億6千5百万円減少の74億1千9百万円、当期純利益は4億4百万円減少の42億8千9百万円となりました。

総資産は713億7千1百万円と前連結会計年度末に比べ103億3千2百万円の増加となりました。資産の部では有形固定資産が29億9千万円増加しており、負債の部では短期借入金が23億1千万円増加しております。

純資産は前連結会計年度末に比べ64億8千6百万円の増加となり、自己資本比率は51.5%となりました。

### (3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの主力製品である自動車部品は得意先のグローバル調達の方針のもとに、激しい価格競争が続いております。このため、売上数量の増加が直ちに利益の増加に結びつかない場合があります。また、主要な原材料である天然ゴム、合成ゴム及び合成樹脂等の市場変動が経営成績に影響を与える場合があります。

### (4) 戦略的現状と見通し

当社グループは、当連結会計年度にグローバルで下記の諸施策を実施いたしました。

#### 1) 短期収益の確保

- ① ベンチマーク拠点を目標にグローバル同一のモノ造りを目指した生産性向上
- ② 主要原材料の現地調達化と全アイテムへの現地化拡大活動の開始
- ③ S T A（短期集中の海外拠点支援）による現場目線での課題解決活動と自主自立型の現地人財の育成
- ④ 新興国を中心に客先生産台数の増減に対応するためのオペレーターの多能化と柔軟な生産体制の構築

#### 2) 売上の拡大

- ① 米州における新規メーカーからの車体シール、防振ゴム部品の受注獲得及び生産開始
- ② アセアンにおける欧米系、中国民族系メーカーへの車体シール部品の受注拡大及び防振ゴム部品、ホース部品の生産開始（中国、インド）
- ③ 中国における既存設備を活用した建機・産機向けホース部品の生産体制の構築

#### 3) 仕事の質の改善

- ① 部署の垣根を越えた9つの重点プロジェクト活動によるイノベーション活動
  - ・ 開発、技術を中心とした顧客満足度向上
  - ・ 生産準備能力向上
  - ・ グローバルでの3つのモノ造り同一化（工程、品質、改善及びマネジメント）
- ② ブレーキ新汎用材料及びEV向け新商品の開発
  - ・ 長期的な重点課題の開発完了

③ ライン内での安定した製品品質の造り込み

- ・ 主要顧客からの最高ランクの獲得、継続中

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度末の現金及び現金同等物は61億7千3百万円と、期首に比べて17億4千9百万円の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が70億6千7百万円、減価償却費22億3千5百万円、売上債権の増加25億3千9百万円、法人税等の支払額26億円などにより、48億5千1百万円の増加（前年同期は57億9千万円の増加）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得39億4千万円、投資有価証券の取得12億4千7百万円などにより、51億5千9百万円の減少（前年同期は50億6千8百万円の減少）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の増加23億7千2百万円、配当金の支払額7億1千4百万円などにより、16億2千9百万円の増加（前年同期は2億5千万円の増加）となりました。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資額は総額約39億円であり、内訳は、日本が約9億円、米州が約16億円、アジアが約14億円であります。

また、部門別の設備投資額は、車体シール部品部門が約29億円、防振部品部門が約4億円、ホース部品部門が約2億円、ブレーキ・型物部品部門が約2億円、管理部門等が約2億円となっており、それぞれ生産ラインのモデルチェンジ対応、合理化投資などを重点的に実施しました。

なお、当社グループの生産品目・生産形態・生産設備機種は極めて多種多様であり、生産能力の画一的測定が困難なため、生産能力への影響は記載しておりません。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成27年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	合計	
㈱キヌガワ郡山 (福島県郡山市) (注)	日本	車体シール 部品製造設 備	880,063	189,845	79,056	1,310,423 (97,792)	2,459,389	161
㈱キヌガワ大分 (大分県中津市) (注)	日本	車体シール 部品製造設 備	259,923	354,071	105,289	444,378 (41,131)	1,163,662	118
㈱キヌガワ防振 部品 (栃木県真岡市) (注)	日本	防振部品 製造設備	153,143	149,261	13,341	275,236 (13,360)	590,983	126
㈱キヌガワブレ ーキ部品 (栃木県真岡市) (注)	日本	ブレーキ・ 型物部品製 造設備	19,581	140,995	10,397	133,831 (6,496)	304,805	65
㈱キヌガワブレ ーキ部品 (栃木県真岡市) (注)	日本	車体シール 部品製造設 備	135,590	17,115	28,730	191,233 (9,282)	372,669	33
提出会社 (千葉市稲毛区)	日本	試験研究 設備他	291,299	67,221	88,308	1,202,939 (15,052)	1,649,768	292

(注) 提出会社より該当事業所に貸与しているものであります。

##### (2) 国内子会社

平成27年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	合計	
佐藤ゴム 化学工業 (株)	本社工場 (千葉県 成田市)	日本	車体シール 部品製 造設備そ の他製品 製造設備	476,851	80,723	9,199	931,883 (41,334)	1,498,658	105
帝都ゴム (株)	本社工場 (埼玉県 入間市)	日本	ホース部 品製造設 備	394,995	230,186	110,084	2,854,107 (34,650)	3,589,372	184

(注) 帝都ゴム(株)の工具、器具及び備品の帳簿価額には、リース資産28,217千円が含まれております。



## (3) 海外子会社

平成27年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	合計	
鬼怒川 橡 塑 (広州) 有限公 司	本社工場 (中国 広州市)	アジア	車体シール 部品製造設 備	313,496	1,380,805	10,327	— (—)	1,704,629	482
KINUGAWA MEXICO, S. A. DE C. V.	本社工場 (メキシコ 国 グア ナファト州)	米州	車体シール 部品・防振 部品・ホー ス部品製造 設備	834,839	1,616,511	205,395	254,984 (70,000)	2,911,731	350

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。  
2 現在休止中の主要な設備は、ありません。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

## (1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメン トの名称	設備の内容	投資予定額		資金 調達方法	着手年月	完成予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出会社	㈱キヌガワ郡山 (福島県郡山市) (注)	日本	車体シール 部品製造設 備	19,000	—	自己資金	平成27年 4月	平成28年 3月	合理化・モ デルチェン ジのため著 しい変動無 し
	㈱キヌガワ大分 (大分県中津市) (注)	日本	車体シール 部品製造設 備	286,000	—	自己資金	平成27年 4月	平成28年 3月	合理化・モ デルチェン ジのため著 しい変動無 し
	㈱キヌガワ防振 部品 (栃木県真岡市) (注)	日本	防振部品 製造設備	50,000	—	自己資金	平成27年 4月	平成28年 3月	合理化・モ デルチェン ジのため著 しい変動無 し
	㈱キヌガワブレ ーキ部品 (栃木県真岡市) (注)	日本	ブ レ ー キ・型物 部品製造 設備	100,000	—	自己資金	平成27年 4月	平成28年 3月	合理化・モ デルチェン ジのため著 しい変動無 し
	本社 (千葉県稲毛区)	日本	試験研究 設備他	380,000	—	自己資金	平成27年 4月	平成28年 3月	—
帝都ゴム(株)	本社工場 (埼玉県入間市)	日本	ホース部 品製造設 備	97,000	—	自己資金	平成27年 4月	平成28年 3月	合理化・モ デルチェン ジのため著 しい変動無 し
KINUGAWA MEXICO, S. A. DE C. V.	本社工場 (メキシコ国グ アナファト州)	米州	車体シール 部品・防 振部品・ホ ース部品製 造設備	770,000	—	借入金	平成27年 1月	平成27年 12月	合理化・モ デルチェン ジのため著 しい変動無 し
鬼怒川橡塑 (蕪湖)有限 公司	本社工場 (中国蕪湖 市)	アジア	車体シール 部品・防 振部品製 造設備	375,000	—	自己資金	平成27年 1月	平成27年 12月	合理化・モ デルチェン ジのため著 しい変動無 し

(注) 提出会社より該当事業所に貸与しているものであります。

## (2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却は予定しておりません。

## 第4 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

## ② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	67,299,522	67,299,522	東京証券取引所 市場第一部	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。
計	67,299,522	67,299,522	—	—

## (2) 【新株予約権等の状況】

平成24年7月25日の取締役会決議に基づいて発行した会社法に基づく新株予約権は、次のとおりであります。

	事業年度末現在 (平成27年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成27年5月31日)
新株予約権の数(個)	72 (注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	72,000 (注) 2	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	平成24年8月30日～ 平成54年8月29日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 481 資本組入額 241	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の決議による 承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項	(注) 4	同左

(注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1,000株であります。

2. 新株予約権を割り当てる日(以下、「割当日」という)以降、当社が当社普通株式の株式分割(当社普通株式の株式無償割当を含む。以下、株式分割の記載につき同じ)又は株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割又は株式併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときはその効力発生日)以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金又は準備金を増加する議案が株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。



また、割当日以降、当社が合併又は会社分割を行う場合その他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で付与株式数を適切に調整することができる。  
付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者（以下、「新株予約権者」という）に通知又は公告する。  
ただし、当該適用の日の前日までに通知又は公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知又は公告する。

### 3. 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権者は、当社の取締役、及び執行役員いずれの地位をも喪失した日（以下、「地位喪失日」という）の翌日以降、新株予約権を行使することができる。
- (2) 上記（1）にかかわらず、新株予約権者は、平成24年8月30日から平成54年8月29日の期間内において以下の①又は②に定める場合（ただし、②については、後記（注4）に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される旨が合併契約、株式交換契約若しくは株式移転計画において定められている場合を除く）には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できる。
  - ①新株予約権者が平成53年8月30日に至るまでに地位喪失日を迎えなかった場合  
平成53年8月30日から平成54年8月29日
  - ②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、取締役会決議がなされた場合）  
当該承認日の翌日から15日間
- (3) 上記（1）及び（2）①は、新株予約権を相続により承継した者については適用しない。
- (4) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合、当該新株予約権を行使することができない。

### 4. 組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る）、吸収分割若しくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る）又は株式交換若しくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という）をする場合には、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件等を勘案の上、前記（注2）に準じて決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定められる再編後行使価額に上記（3）に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間  
新株予約権の行使期間開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権の行使期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
  - ①新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。
  - ②新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記①記載の資本金等増加限度額から上記①に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。

## (8) 新株予約権の取得条項

以下の①、②、③、④又は⑤の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当社取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

- ①当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
- ②当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案
- ③当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案
- ④当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
- ⑤新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること若しくは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

## (9) その他の新株予約権の行使の条件

前記（注3）に準じて決定する。

平成25年7月24日の取締役会決議に基づいて発行した会社法に基づく新株予約権は、次のとおりであります。

	事業年度末現在 (平成27年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成27年5月31日)
新株予約権の数(個)	61 (注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	61,000 (注) 2	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	平成25年8月29日～ 平成55年8月28日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 502 資本組入額 251	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の決議による承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1,000株であります。

2. 新株予約権を割り当てる日（以下、「割当日」という）以降、当社が当社普通株式の株式分割（当社普通株式の株式無償割当を含む。以下、株式分割の記載につき同じ）又は株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割又は株式併合の比率

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日（基準日を定めないときはその効力発生日）以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金又は準備金を増加する議案が株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、割当日以降、当社が合併又は会社分割を行う場合その他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で付与株式数を適切に調整することができる。

付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者（以下、「新株予約権者」という）に通知又は公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知又は公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知又は公告する。

3. 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権者は、当社の取締役、及び執行役員の内いずれの地位をも喪失した日（以下、「地位喪失日」という）の翌日以降、新株予約権を行使することができる。

- (2) 上記(1)にかかわらず、新株予約権者は、平成25年8月29日から平成55年8月28日の期間内において以下の①又は②に定める場合(ただし、②については、後記(注4)に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される旨が合併契約、株式交換契約若しくは株式移転計画において定められている場合を除く)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できる。

①新株予約権者が平成54年8月28日に至るまでに地位喪失日を迎えていなかった場合

平成54年8月29日から平成55年8月28日

②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合は、取締役会決議がなされた場合)

当該承認日の翌日から15日間

- (3) 上記(1)及び(2)①は、新株予約権を相続により承継した者については適用しない。  
 (4) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合、当該新株予約権を行使することができない。

#### 4. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る)、吸収分割若しくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る)又は株式交換若しくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る)(以上を総称して以下、「組織再編行為」という)をする場合には、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という)の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

(1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

(2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

(3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、前記(注2)に準じて決定する。

(4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定められる再編後行使価額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

(5) 新株予約権を行使することができる期間

新株予約権の行使期間開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権の行使期間の満了日までとする。

(6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

①新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

②新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記①記載の資本金等増加限度額から上記①に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

(7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。

(8) 新株予約権の取得条項

以下の①、②、③、④又は⑤の議案につき当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合)は、当社取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

①当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

②当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案

③当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案

④当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

⑤新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること若しくは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

(9) その他の新株予約権の行使の条件

前記(注3)に準じて決定する。



平成26年7月23日の取締役会決議に基づいて発行した会社法に基づく新株予約権は、次のとおりであります。

	事業年度末現在 (平成27年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成27年5月31日)
新株予約権の数(個)	67 (注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	67,000 (注) 2	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	平成26年8月28日～ 平成56年8月27日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 444 資本組入額 222	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の決議による 承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項	(注) 4	同左

(注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1,000株であります。

2. 新株予約権を割り当てる日(以下、「割当日」という)以降、当社が当社普通株式の株式分割(当社普通株式の株式無償割当を含む。以下、株式分割の記載につき同じ)又は株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割又は株式併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときはその効力発生日)以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金又は準備金を増加する議案が株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、割当日以降、当社が合併又は会社分割を行う場合その他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で付与株式数を適切に調整することができる。

付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という)に通知又は公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知又は公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知又は公告する。

3. 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権者は、当社の取締役、及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日(以下、「地位喪失日」という)の翌日以降、新株予約権を行使することができる。
- (2) 上記(1)にかかわらず、新株予約権者は、平成26年8月28日から平成56年8月27日の期間内において以下の①又は②に定める場合(ただし、②については、後記(注4)に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される旨が合併契約、株式交換契約若しくは株式移転計画において定められている場合を除く)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できる。
  - ①新株予約権者が平成55年8月27日に至るまでに地位喪失日を迎えなかった場合  
平成55年8月28日から平成56年8月27日
  - ②当社が消滅会社となる合併契約承認の議案又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合は、取締役会決議がなされた場合)  
当該承認日の翌日から15日間
- (3) 上記(1)及び(2)①は、新株予約権を相続により承継した者については適用しない。
- (4) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合、当該新株予約権を行使することができない。

## 4. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る）、吸収分割若しくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る）又は株式交換若しくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という）をする場合には、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

## (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

## (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

## (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、前記（注2）に準じて決定する。

## (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定められる再編後行使価額に上記（3）に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

## (5) 新株予約権を行使することができる期間

新株予約権の行使期間開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権の行使期間の満了日までとする。

## (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

①新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

②新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記①記載の資本金等増加限度額から上記①に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

## (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。

## (8) 新株予約権の取得条項

以下の①、②、③、④又は⑤の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当社取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

①当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

②当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案

③当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案

④当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

⑤新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること若しくは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

## (9) その他の新株予約権の行使の条件

前記（注3）に準じて決定する。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年7月31日	—	67,299,522	—	5,654,585	△1,626,198	—

(注) 平成19年6月28日開催の第68回定時株主総会における資本準備金減少決議に基づく、その他資本剰余金への振替であります。

## (6) 【所有者別状況】

平成27年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	41	34	71	112	3	3,236	3,497	—
所有株式数 (単元)	—	30,714	1,498	10,678	14,335	12	9,704	66,941	358,522
所有株式数 の割合(%)	—	45.88	2.24	15.95	21.41	0.02	14.50	100.00	—

(注) 自己株式85,787株は「個人その他」に85単元、「単元未満株式の状況」に787株含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成27年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日産自動車株式会社退職給付信託口座 信託受託者 みずほ信託銀行株式会社 再信託受託者 資産管理サービス信託 銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-12	13,626	20.25
東洋ゴム工業株式会社	大阪府大阪市西区江戸堀1-17-18	8,000	11.89
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	3,165	4.70
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A2BB UNITED KINGDOM	2,276	3.38
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	1,793	2.66
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	1,336	1.99
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,280	1.90
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE FIDELITY FUNDS	50 BANK STREET CANARY WH ARF LONDON E14 5NT, UK	1,177	1.75
CREDIT SUISSE AG ZURICH FOR AIF FUNDS	UETLIBERGSTRASSE 231, P. O. BOX 600 CH-8070 ZURICH SWITZERLAND	1,135	1.69
資産管理サービス信託銀行株式 会社(信託B口)	東京都中央区晴海1-8-12	935	1.39
計	—	34,725	51.60

(注) 「日産自動車株式会社退職給付信託口座」名義の株式13,626千株は日産自動車株式会社が保有する当社株式を退職給付信託として信託設定したものであり、議決権については日産自動車株式会社が指図権を留保しております。

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 85,000	—	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 66,856,000	66,856	同上
単元未満株式	普通株式 358,522	—	同上
発行済株式総数	67,299,522	—	—
総株主の議決権	—	66,856	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には当社所有の自己株式787株が含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 鬼怒川ゴム工業(株)	千葉県稲毛区長沼町330	85,000	—	85,000	0.13
計	—	85,000	—	85,000	0.13

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

会社法の規定に基づき、株式報酬型ストックオプションとして新株予約権を発行することを、取締役会において決議したものであります。

決議年月日	平成24年7月25日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役4名及び当社執行役員12名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の目的となる株式の数	78,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

(注) 平成27年5月31日現在におきましては、付与対象者は退任により4名減少し、12名であり、新株発行予定数は6,000株失効し、72,000株であります。

決議年月日	平成25年7月24日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役4名及び当社執行役員12名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の目的となる株式の数	63,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

(注) 平成27年5月31日現在におきましては、付与対象者は退任により3名減少し、13名であり、新株発行予定数は2,000株失効し、61,000株であります。

決議年月日	平成26年7月23日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役4名及び当社執行役員12名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の目的となる株式の数	67,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。



## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	6,727	3,330
当期間における取得自己株式	917	501

(注) 当期間における取得自己株式には、平成27年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	85,787	—	86,704	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成27年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、配当性向と企業体質の強化及び内部留保の充実を勘案しつつ、収益状況に対応した配当を行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度（平成27年3月期）の剰余金の配当につきましては、上記の基本方針により、年間1株当たり10円（うち中間配当5円）の配当とさせていただきます。

なお、当社は取締役会の決議により、毎年9月30日の株主名簿に記載又は記録された株主若しくは登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

（注） 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成26年11月6日 取締役会決議	336,086	5
平成27年6月25日 定時株主総会決議	336,068	5

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
最高(円)	531	695	649	679	570
最低(円)	281	350	358	405	398

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
最高(円)	476	496	557	538	539	564
最低(円)	415	462	478	483	478	515

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 5 【役員の状況】

男性9名 女性一名（役員のうち女性の比率—%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長執行役員		関山定男	昭和24年1月7日生	昭和49年4月 平成14年4月 平成15年4月 平成18年4月 平成18年6月 平成19年4月	日産自動車(株)入社 同社生産技術本部車両技術統括部長 同社常務 当社副社長執行役員就任 当社取締役副社長執行役員就任 当社代表取締役社長執行役員就任(現)	(注)3	102
取締役 専務執行役員		今林功	昭和27年6月19日生	昭和51年4月 平成13年4月 平成19年4月 平成19年6月 平成24年6月 平成27年6月	日産自動車(株)入社 同社追浜工場製造部長 当社執行役員就任 帝都ゴム(株)代表取締役社長就任 当社取締役常務執行役員就任 当社取締役専務執行役員就任(現)	(注)3	9
取締役 常務執行役員		上津輝男	昭和29年6月22日生	昭和53年4月 平成14年4月 平成18年11月 平成24年4月 平成26年1月 平成26年6月	当社入社 当社第二調達部主管 鬼怒川橡塑(広州)有限公司副総経理 当社執行役員就任 (兼)鬼怒川橡塑(広州)有限公司総経理 当社常務執行役員就任 当社取締役常務執行役員就任(現)	(注)3	6
取締役 常務執行役員		中島俊之	昭和30年8月10日生	昭和54年4月 平成18年4月 平成23年4月 平成25年4月 平成26年4月 平成26年6月	日産自動車(株)入社 同社車両技術企画部長 同社新工場準備部長 当社執行役員就任 当社常務執行役員就任 当社取締役常務執行役員就任(現)	(注)3	—
取締役		安斉勉	昭和30年8月7日生	昭和56年4月 昭和62年4月 平成15年4月 平成27年6月	弁護士登録 安斉勉法律事務所開設 城西大学生命科学研究倫理審査委員 当社取締役就任(現)	(注)4	—
取締役		大高由紀夫	昭和30年10月23日生	平成16年5月 平成19年6月 平成22年10月 平成27年6月	(株)みずほコーポレート銀行(現(株)みずほ銀行)バハレーン駐在員事務所長 同行欧州プロダクツ営業部ドバイ出張所長、バハレーン駐在員事務所長 ゼブラ(株)理事アジア中近東営業本部副本部長 当社取締役就任(現)	(注)4	—
監査役 (常勤)		北澤浩	昭和26年8月26日生	昭和51年4月 平成15年4月 平成18年4月 平成23年4月 平成27年6月	当社入社 当社経理・情報システム部長 当社執行役員就任 中光橡膠工業股分有限公司董事長 当社監査役就任(現)	(注)5	14
監査役		大木宣	昭和24年9月5日生	昭和47年4月 平成8年4月 平成14年4月 平成18年4月 平成21年6月	(株)日本興業銀行入行 同行新潟支店副支店長 みずほゼネラルサービス(株)執行役員 同社上席執行役員 当社監査役就任(現)	(注)6	3
監査役		山本正彦	昭和28年3月31日生	昭和51年4月 平成10年2月 平成14年12月 平成25年1月 平成25年6月	山一証券(株)入社 東洋ゴム工業(株)入社 同社タイヤ海外営業本部付 東洋輪胎(上海)貿易有限公司社長 同社CSR統括センター監査部 当社監査役就任(現)	(注)6	—
計							134

- (注) 1. 取締役の安斉勉及び大高由紀夫は、社外取締役であります。  
 2. 監査役の大木宣及び山本正彦は、社外監査役であります。  
 3. 平成26年6月25日開催の定時株主総会終結の時から2年間  
 4. 平成27年6月25日開催の定時株主総会終結の時から1年間  
 5. 平成27年6月25日開催の定時株主総会終結の時から4年間  
 6. 平成25年6月26日開催の定時株主総会終結の時から4年間

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ① 企業統治の体制

当社における、企業統治の体制は、株主総会・取締役会・監査役会・会計監査人による監査の他にも、CSR推進室やコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス及びリスクマネジメントの強化に向けた取り組みを行っております。

(企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由)

当社は、平成12年度より執行役員制度を導入しており、経営と執行の役割分担を明確にし、取締役及び取締役会がよりの確に業務執行の監督ができる体制になっております。

さらに、取締役会、監査役会、会計監査人による監査の他にも内部監査部門であるCSR推進室を設置しており、経営の監視機能が十分に機能する体制が整っていると判断しております。

(企業統治に関する事項－内部統制システムの整備の状況)

当社は、経営の意思決定の迅速化と業務執行の責任を明確にするために執行役員制度を導入しており、取締役会が選任した執行役員が業務執行を行い、原則的に毎月1回開催される取締役会や執行役員会などの各種会議体を通じて、取締役及び監査役が業務執行の監督を行っております。

また、内部統制システム構築を主目的としたCSR推進室は、内部統制を含む企業の果たすべき社会的責任を明確化し、必要な仕組みの構築とメッセージの社内外への発信を行い、グループ全体の統制を図っております。

なお、重要な法律上の判断を必要とする課題やコンプライアンスに係る事案については、顧問契約を締結した外部弁護士に相談し、必要に応じた助言を受けております。

(企業統治に関する事項－リスク管理体制の整備状況)

当社は、様々な観点からリスクを把握・評価し、発生頻度と発生時の被害規模などをもとにリスクマネジメント項目の優先順位付けを行い、担当役員と管理責任部署長からなるリスクマネジメント推進の準備組織のもとで具体的な対策を講じつつあります。

また、当社では、従来の行動規範の見直しを進め、「鬼怒川グループ行動規範」としてまとめ、全従業員に展開しております。周知徹底のために教育も実施し、行動規範の更なる整備や課題の解決、啓発活動を推進し、企業倫理の向上に努めております。

(子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況)

当社は、子会社及び関連会社の経営について、自主性を尊重しつつも、半期ごとに当社の社長以下役員・監査役と子会社・関連会社役員との間で、各会社毎の事業内容等についてヒアリングを行い、企業経営の効率性・健全性の確認チェックを実施しております。

また、当社の監査役が、子会社及び関連会社の非常勤監査役を兼任あるいは、当社の使用人を子会社及び関連会社の非常勤取締役、非常勤監査役として派遣し、業務監査等を実施してはりましたが、高まる子会社及び関連会社管理に対応するため、今後は、「関係会社管理規程」に基づき、より適切な業務監査等の実施を行ってまいります。

## ② 内部監査及び監査役監査

当社の内部監査及び監査役監査の組織は、CSR推進室及び監査役会であります。  
(人員(財務及び会計に関する相当程度の知見を有する監査役又は監査委員が含まれる場合には、その事実)及び手続き)

CSR推進室は、提出日現在4名(兼務者を含む)おり、業務の遂行が各種法令や当社の各種規程類及び経営計画などに準拠して実施されているか、効果的・効率的に行われているか、などについて調査・チェックし、指導・改善に向けた内部監査を行っております。

また、当社は監査役制度を採用しており、監査役3名(提出日現在、うち社外監査役2名)は監査役会を毎月1回開催しております。監査役は取締役会及び執行役員会などの各種会議体に出席するほか、各監査役は監査役会が定めた監査計画及び職務分担に基づき、業務執行について監査を行っております。  
(内部監査、監査役(監査委員会)監査及び会計監査の相互連携、監査と内部統制部門との関係)

会計監査人とは期末・四半期末及び期中の会計監査の結果について情報交換するとともに、重要な会計的課題については随時検討を行っております。

また、監査役とCSR推進室は綿密に連携をとり、業務監査について相互補完しながら実行し、内部統制システムが適正に機能する体制の整備・強化を行っております。

## ③ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役及び社外監査役はそれぞれ2名であります。  
(社外取締役及び社外監査役と提出会社との人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係)

社外取締役安齊勉氏は、当社と平成25年4月から平成27年3月まで顧問弁護士契約を締結しておりましたが、現在は顧問弁護士契約は解除しております。

社外取締役大高由紀夫氏は、大株主である㈱みずほ銀行(旧㈱みずほコーポレート銀行)の出身であり、同行から当社は資金借入の取引関係があります。

社外監査役大木宣氏(当社株式3千株所有)は、大株主である㈱みずほ銀行(旧㈱日本興業銀行)の出身であり、同行から当社は資金借入の取引関係があります。

社外監査役山本正彦氏は、大株主である東洋ゴム工業㈱の出身であり、同社と当社との間には当社製品の販売の取引関係があります。

(社外取締役及び社外監査役が提出会社の企業統治において果たす機能及び役割)

社外取締役及び社外監査役は、それぞれの専門的見地と豊富な経験から外部者の立場で、取締役会等の各種会議体に参加し、必要な意見や問題点等の明確な説明を求めており、経営及び監視の実行性を高めております。  
(社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する提出会社の考え方)

社外取締役2名と社外監査役2名であり、それぞれの専門分野から意見を述べるなど、経営を社外から監視及び監査する機能が十分に整っていると考えております。

(社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係)

社外監査役は、毎月開催される監査役会に出席し、内部監査に関する情報交換を行っております。

監査役と会計監査人は、期末、四半期末及び期中の会計監査の結果について情報交換するとともに、重要な会計的課題については相互に随時検討、情報及び意見の交換を行うなど連携を強めております。

監査役とCSR推進室は、綿密に連携をとり、業務監査について相互補完しながら実行し、内部統制システムが適正に機能する体制を整備・強化しております。

(社外監査役の選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針の内容)

社外取締役及び社外監査役の選任にあたり、独立性に関する基準は定めていないものの、経営の透明性を高めるために独立した立場から経営の監視及び監査を行う能力及び識見を持った、一般株主と利益相反が生じるおそれのない者を選任しております。

## ④ 役員の報酬等

## 1) 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	115,870	102,853	13,017	—	—	6
監査役 (社外監査役を除く。)	3,600	3,600	—	—	—	1
社外役員	16,536	16,536	—	—	—	3

(注)1. 取締役の報酬限度額は、平成2年6月28日開催の第51回定時株主総会において、月額1,500万円以内（ただし、使用人分給与は含まない）と決議しております。

(注)2. 監査役の報酬限度額は、平成6年6月29日開催の第55回定時株主総会において、月額500万円以内と決議しております。

## 2) 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

## 3) 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

当社には使用人兼務役員は存在しないため、記載しておりません。

## 4) 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額の決定に関する方針を定めていないため、記載しておりません。

## ⑤ 株式の保有状況

## 1) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 7銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 184,057千円

## 2) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱常陽銀行	107,000	55,105	取引関係の維持・発展等の目的
東洋ゴム工業㈱	50,000	36,550	取引関係の維持・発展等の目的
日本発条㈱	18,900	18,087	取引関係の維持・発展等の目的

(注) ㈱常陽銀行、東洋ゴム工業㈱及び日本発条㈱は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位3銘柄について記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱常陽銀行	107,000	66,126	取引関係の維持・発展等の目的
東洋ゴム工業㈱	25,000	54,175	取引関係の維持・発展等の目的
日本発条㈱	18,900	23,681	取引関係の維持・発展等の目的

(注) 東洋ゴム工業㈱及び日本発条㈱は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位3銘柄について記載しております。

## 3) 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。



## ⑥ 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は川崎浩、金井匡志及び岩淵誠であり、仰星監査法人に所属し、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士9名及びその他1名であります。

## ⑦ 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款で定めております。

## ⑧ 取締役の選解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行いう旨を定款で定めております。

また、取締役の選任決議について、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

## ⑨ 自己株式の取得の決定機関

当社は、会社法165条第2項の規定に従い、機動的な資本政策の遂行を可能にするため、取締役会の決議によって市場取引等により、自己の株式を取得できる旨を定款で定めております。

## ⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行いう旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## ⑪ 責任限定契約の内容の概要

当社は社外取締役及び社外監査役全員と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は法令が規定する最低責任限度額であります。

## ⑫ 中間配当の決定機関

当社は、会社業績に応じた株主への利益還元を柔軟に実施するため、取締役会の決議により、毎年9月30日の株主名簿に記載又は記録された株主若しくは登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

## (2) 【監査報酬の内容等】

## ① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	27,500	—	27,500	—
連結子会社	3,000	—	3,000	—
計	30,500	—	30,500	—

## ② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

## ③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

## ④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

なお、従来から当社が監査証明を受けている明和監査法人は、平成26年7月1日付で仰星監査法人と合併し、名称を仰星監査法人に変更しております。

当社の監査公認会計士等は次のとおり異動しております。

第75期連結会計年度の連結財務諸表及び第75期事業年度の財務諸表	明和監査法人
第76期連結会計年度の連結財務諸表及び第76期事業年度の財務諸表	仰星監査法人

当該異動について臨時報告書を提出しております。臨時報告書に記載した事項は次のとおりです。

#### (1) 当該異動に係る監査公認会計士等の名称

##### ①存続する監査公認会計士等の概要

名称 仰星監査法人  
所在地 東京都千代田区九段南3-3-6 麴町ビル2階

##### ②消滅する監査公認会計士等の概要

名称 明和監査法人  
所在地 東京都中央区銀座5-15-1 南海東京ビル

#### (2) 当該異動の年月日

平成26年7月1日

#### (3) 消滅する監査公認会計士等の直近における就任年月日

平成26年6月25日

#### (4) 消滅する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等又は内部統制監査報告書における意見等に関する事項

該当事項はありません。

#### (5) 当該異動の決定又は当該異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人である明和監査法人(消滅法人)が平成26年7月1日付で、仰星監査法人(存続法人)と合併したことに伴うものであります。

これに伴いまして、当社の監査証明を行う監査公認会計士等は仰星監査法人となります。

#### (6) (5)の理由及び経緯に対する監査報告書等又は内部統制監査報告書の記載事項に係る消滅する監査公認会計士等の意見

特段の意見はないとの申し出を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、その他加入の財団法人主催のセミナー・研修会等に参加しております。



## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## ① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,424,339	6,173,518
受取手形及び売掛金	17,188,425	21,160,747
商品及び製品	1,392,679	1,521,419
仕掛品	1,292,862	1,357,969
原材料及び貯蔵品	2,655,705	3,004,670
繰延税金資産	500,152	426,772
その他	4,408,037	3,418,057
貸倒引当金	△42,474	△66,142
流動資産合計	31,819,728	36,997,013
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	20,304,260	20,990,602
減価償却累計額	△15,140,661	△15,372,891
建物及び構築物（純額）	5,163,598	5,617,711
機械装置及び運搬具	32,269,979	36,794,477
減価償却累計額	△26,370,324	△28,299,088
機械装置及び運搬具（純額）	5,899,654	8,495,388
工具、器具及び備品	15,183,144	15,885,655
減価償却累計額	△14,374,346	△14,908,732
工具、器具及び備品（純額）	808,797	976,922
土地	※4 10,456,799	※4 10,786,510
建設仮勘定	1,827,832	1,270,984
有形固定資産合計	※2 24,156,683	※2 27,147,518
無形固定資産		
のれん	163,573	108,604
その他	454,480	470,842
無形固定資産合計	618,054	579,446
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 3,794,932	※1 5,223,392
長期貸付金	128,705	212,362
繰延税金資産	218,651	692,381
その他	334,362	562,607
貸倒引当金	△32,184	△43,123
投資その他の資産合計	4,444,466	6,647,619
固定資産合計	29,219,204	34,374,585
資産合計	61,038,933	71,371,598

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,245,306	8,828,246
短期借入金	※2 4,452,772	6,762,871
1年内返済予定の長期借入金	※2 682,950	※2 630,400
未払費用	1,483,592	1,295,943
未払法人税等	1,464,198	1,533,407
賞与引当金	863,190	852,395
その他	1,843,444	2,319,343
流動負債合計	19,035,454	22,222,607
固定負債		
長期借入金	※2 3,392,182	※2 4,260,171
繰延税金負債	339,502	294,979
再評価に係る繰延税金負債	※4 1,987,948	※4 1,842,720
役員退職慰労引当金	38,383	42,976
退職給付に係る負債	4,360,512	4,382,069
資産除去債務	82,626	82,626
その他	267,318	222,172
固定負債合計	10,468,473	11,127,716
負債合計	29,503,928	33,350,323
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,654,585	5,654,585
資本剰余金	849,597	849,597
利益剰余金	21,269,441	24,218,835
自己株式	△34,487	△37,817
株主資本合計	27,739,136	30,685,200
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	81,409	134,355
土地再評価差額金	※4 2,471,580	※4 2,616,808
為替換算調整勘定	1,937,413	4,058,697
退職給付に係る調整累計額	△1,718,001	△751,010
その他の包括利益累計額合計	2,772,401	6,058,851
新株予約権	57,981	87,882
少数株主持分	965,486	1,189,341
純資産合計	31,535,005	38,021,275
負債純資産合計	61,038,933	71,371,598

## ② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	74,543,568	76,135,763
売上原価	※1 60,342,336	※1 62,342,568
売上総利益	14,201,232	13,793,195
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	1,728,734	1,807,415
従業員給料及び賞与	1,706,371	1,841,559
法定福利及び厚生費	407,626	421,427
退職給付費用	118,042	74,011
賞与引当金繰入額	217,810	210,632
役員退職慰労引当金繰入額	8,054	7,144
減価償却費	153,779	159,164
賃借料	159,127	133,587
消耗品費	134,703	102,099
のれん償却額	54,969	54,969
貸倒引当金繰入額	927	23,444
その他	2,218,133	2,027,485
販売費及び一般管理費合計	※1 6,908,281	※1 6,862,941
営業利益	7,292,950	6,930,253
営業外収益		
受取利息	87,602	90,206
受取配当金	25,004	7,015
持分法による投資利益	235,163	—
固定資産賃貸料	44,220	51,920
助成金収入	6,237	—
為替差益	375,901	386,862
その他	243,513	356,226
営業外収益合計	1,017,643	892,229
営業外費用		
支払利息	161,396	230,630
持分法による投資損失	—	77,933
その他	64,289	94,564
営業外費用合計	225,685	403,127
経常利益	8,084,908	7,419,355

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	※2 174,354	※2 3,446
その他	25,340	600
特別利益合計	199,695	4,046
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	※3 45,403	※3 84,085
建物解体費用	—	91,400
割増退職金	9,634	79,199
事業構造改善費用	116,257	—
訴訟関連損失	—	82,293
その他	4,905	18,951
特別損失合計	176,201	355,929
税金等調整前当期純利益	8,108,401	7,067,472
法人税、住民税及び事業税	3,259,952	2,631,097
法人税等調整額	46,901	36,554
法人税等合計	3,306,853	2,667,652
少数株主損益調整前当期純利益	4,801,548	4,399,819
少数株主利益	107,246	110,421
当期純利益	4,694,301	4,289,397

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月 31日)
少数株主損益調整前当期純利益	4,801,548	4,399,819
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	34,066	52,946
土地再評価差額金	—	145,228
為替換算調整勘定	2,309,728	2,087,192
退職給付に係る調整額	—	813,976
持分法適用会社に対する持分相当額	383,335	196,265
その他の包括利益合計	※1 2,727,130	※1 3,295,608
包括利益	7,528,678	7,695,428
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	7,253,682	7,426,596
少数株主に係る包括利益	274,995	268,832

## ③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,654,585	849,597	17,112,984	△27,703	23,589,463
会計方針の変更による累積的影響額					—
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,654,585	849,597	17,112,984	△27,703	23,589,463
当期変動額					
剰余金の配当			△537,845		△537,845
当期純利益			4,694,301		4,694,301
自己株式の取得				△6,783	△6,783
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	4,156,456	△6,783	4,149,673
当期末残高	5,654,585	849,597	21,269,441	△34,487	27,739,136

	その他の包括利益累計額					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	47,342	2,471,580	△587,900	—	1,931,021	27,120	785,159	26,332,764
会計方針の変更による累積的影響額								—
会計方針の変更を反映した当期首残高	47,342	2,471,580	△587,900	—	1,931,021	27,120	785,159	26,332,764
当期変動額								
剰余金の配当								△537,845
当期純利益								4,694,301
自己株式の取得								△6,783
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	34,066	—	2,525,314	△1,718,001	841,379	30,861	180,326	1,052,567
当期変動額合計	34,066	—	2,525,314	△1,718,001	841,379	30,861	180,326	5,202,241
当期末残高	81,409	2,471,580	1,937,413	△1,718,001	2,772,401	57,981	965,486	31,535,005

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,654,585	849,597	21,269,441	△34,487	27,739,136
会計方針の変更による累積的影響額			△667,814		△667,814
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,654,585	849,597	20,601,626	△34,487	27,071,321
当期変動額					
剰余金の配当			△672,188		△672,188
当期純利益			4,289,397		4,289,397
自己株式の取得				△3,330	△3,330
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	3,617,208	△3,330	3,613,878
当期末残高	5,654,585	849,597	24,218,835	△37,817	30,685,200

	その他の包括利益累計額					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	81,409	2,471,580	1,937,413	△1,718,001	2,772,401	57,981	965,486	31,535,005
会計方針の変更による累積的影響額								△667,814
会計方針の変更を反映した当期首残高	81,409	2,471,580	1,937,413	△1,718,001	2,772,401	57,981	965,486	30,867,190
当期変動額								
剰余金の配当								△672,188
当期純利益								4,289,397
自己株式の取得								△3,330
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	52,946	145,228	2,121,283	966,991	3,286,450	29,901	223,855	3,540,206
当期変動額合計	52,946	145,228	2,121,283	966,991	3,286,450	29,901	223,855	7,154,084
当期末残高	134,355	2,616,808	4,058,697	△751,010	6,058,851	87,882	1,189,341	38,021,275

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月 31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	8,108,401	7,067,472
減価償却費	1,960,204	2,235,713
のれん償却額	54,969	54,969
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△6,551	33,357
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△2,682,912	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	2,642,510	△482,637
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	3,326	4,593
受取利息及び受取配当金	△112,607	△97,221
支払利息	161,396	230,630
有形固定資産売却損益 (△は益)	△174,354	△3,446
有形固定資産除却損	45,403	84,085
持分法による投資損益 (△は益)	△235,163	77,933
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,612,175	△2,539,354
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△43,510	△216,974
仕入債務の増減額 (△は減少)	898,066	△255,374
未払消費税等の増減額 (△は減少)	50,257	254,099
その他	△348,745	1,137,125
小計	8,708,515	7,584,969
利息及び配当金の受取額	112,607	97,221
利息の支払額	△161,420	△230,630
法人税等の支払額	△2,869,005	△2,600,457
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,790,696	4,851,103
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,713,790	△3,940,691
有形固定資産の売却による収入	225,284	29,676
投資有価証券の取得による支出	△1,103,477	△1,247,399
その他	△476,283	△625
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,068,267	△5,159,040
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△821,178	1,846,274
長期借入れによる収入	3,328,818	1,625,131
長期借入金の返済による支出	△1,591,293	△1,098,606
自己株式の取得による支出	△6,783	△3,330
配当金の支払額	△537,845	△670,620
少数株主への配当金の支払額	△94,170	△44,160
その他	△27,189	△24,989
財務活動によるキャッシュ・フロー	250,357	1,629,699
現金及び現金同等物に係る換算差額	475,999	427,416
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,448,786	1,749,179
現金及び現金同等物の期首残高	2,959,755	4,424,339
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	15,796	—
現金及び現金同等物の期末残高	※1 4,424,339	※1 6,173,518



## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

## 1 連結の範囲に関する事項

## (1) 連結子会社の数 23社

国内会社	11社
在外会社	12社

## (2) 主要な連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

## (3) 主要な非連結子会社

Kinugawa Rubber India Private Limited

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社12社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であるためであります。

## 2 持分法の適用に関する事項

## (1) 持分法適用の関連会社数 2社

会社名	榊根本精機
	天津星光橡塑有限公司

## (2) 持分法適用の非連結子会社数 1社

会社名	中光平鎮橡膠工業股份有限公司
-----	----------------

(3) 持分法を適用していない非連結子会社11社 (Kinugawa Rubber India Private Limited等) 及び関連会社1社 (河南科威汽车配件有限公司) は、それぞれ当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であるため、持分法の適用範囲から除外しております。

## (4) 持分法の適用の手続について特に記載する必要があると認められる事項

持分法適用会社は、決算日が異なるため、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

## 3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、決算日が連結決算日 (3月31日) と異なる子会社は、次のとおりであります。

- ・TEPRO, INC.
- ・中光橡膠工業股份有限公司
- ・星光橡塑發展有限公司
- ・福州福光橡塑有限公司
- ・鬼怒川橡塑(広州)有限公司
- ・鬼怒川橡塑(蕪湖)有限公司
- ・KINUGAWA (Thailand) CO., LTD.
- ・CPR GOMU IND. P. C. L.
- ・CGI Metal Industrial CO., LTD.
- ・Yulchon Pipe (Thailand) CO., LTD.
- ・KINUGAWA MEXICO, S. A. DE C. V.
- ・PT. KINUGAWA INDONESIA

上記12社の決算日は12月31日ですが、連結財務諸表作成に当たっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

- ・(株)キヌガワ郡山
- ・(株)キヌガワ大分
- ・(株)キヌガワ防振部品
- ・(株)キヌガワブレーキ部品

上記4社の決算日は9月30日ですが、連結財務諸表作成に当たっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

## 4 会計処理基準に関する事項

## (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

## ① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

## ② たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

製品・仕掛品

主として総平均法、一部の国内連結子会社は売価還元法、在外連結子会社は先入先出法

原材料

主として総平均法、在外連結子会社は主として先入先出法

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

## ① 有形固定資産(リース資産除く)

当社及び国内連結子会社は、主として定率法(ただし、平成10年4月以降に取得した建物については定額法)を採用し、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	3～50年
機械装置及び運搬具	4～14年
工具、器具及び備品	2～15年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

## ② 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

## ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

## ① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

## ② 投資評価引当金

関係会社への投資に対する損失に備えるため、資産内容等を検討して計上しております。

なお、投資有価証券より控除して表示しております。

## ③ 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき、当連結会計年度の負担額を計上しております。

## ④ 役員退職慰労引当金

役員及び執行役員の退職慰労金の支出に備えるため、国内連結子会社は内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

## (4) 退職給付に係る会計処理の方法

## ① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

## ② 数理計算上の差異、過去勤務費用及び会計基準変更時差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により費用処理しております。なお、会計基準変更時差異発生額（323,099千円）については、主として15年による定額法により費用処理しております。

## (5) 連結財務諸表作成の基礎となった連結会社の財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は、期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

## (6) 重要なヘッジ会計の方法

## ① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。ただし、ヘッジ会計の要件を満たしており、さらに想定元本、利息の受払条件及び契約期間がヘッジ対象となる借入金と同一である金利スワップについては特例処理を採用しております。

## ② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	金利スワップ取引
ヘッジ対象	借入金の支払金利

## ③ ヘッジ方針

金利変動による借入債務の損失可能性を減殺する目的で行っております。

## ④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フローの変動の累計とを比率分析する方法により行っております。

なお、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

## (7) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

## (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資であります。

## (9) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

## (会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に基づく割引率から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当連結会計年度の期首の退職給付に係る負債が667,814千円増加し、利益剰余金が667,814千円減少しております。また、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ34,754千円増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

## (表示方法の変更)

## (退職給付関係)

「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日)の改正に伴い、複数事業主制度に基づく退職給付に関する注記の表示方法を変更し、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

なお、連結財務諸表の組替えの内容及び連結財務諸表の主な項目に係る前連結会計年度における金額は当該箇所に記載しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
投資有価証券(株式)	3,510,927千円	4,865,257千円
なお、投資評価引当金を前連結会計年度及び当連結会計年度は20,000千円、それぞれ控除して表示しております。		

※2 担保に供している資産は、下記のとおりであります。

(1) 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
建物及び構築物	2,515,308千円	1,293,801千円
機械装置及び運搬具	43,990	13,959
工具、器具及び備品	6	0
土地	9,547,850	5,164,346
合計	12,107,155千円	6,472,107千円

上記のうち工場財団設定分

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
建物及び構築物	1,741,653千円	846,055千円
機械装置及び運搬具	43,990	13,959
工具、器具及び備品	6	0
土地	4,883,870	1,310,423
合計	6,669,522千円	2,170,438千円

(2) 上記の担保資産に対応する債務

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
短期借入金	20,000千円	一千円
長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金を含む)	393,200	251,800
(うち工場財団分)	(393,200)	(251,800)
合計	413,200千円	251,800千円

3 債務保証

金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
Kinugawa Rubber India Private Limited	138,221千円 (ルピー 70,000千) (US\$ 173千)	232,800千円 (ルピー 120,000千)
KINUGAWA BRASIL Ltda.	833,192 (レアル 9,000千) (US\$ 4,126千)	977,407 (US\$ 8,126千)
Limited liability company Kinugawa RUS	—	338,678 (ルーブル 80,000千) (US\$ 1,432千)
従業員	33,273	36,468
合計	1,004,687千円	1,585,354千円

## ※4 土地の再評価

「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、再評価差額金については当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

## 再評価の方法

当社については土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に基づき算出し、その他については、土地の再評価に関する法律施行令第2条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価に基づき算出しております。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日  
(連結子会社1社については平成12年3月31日)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	△3,195,364千円	△3,281,364千円

## 5 貸出コミットメントライン契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
貸出コミットメントの総額	3,000,000千円	3,000,000千円
借入実行残高	—	2,500,000
差引額	3,000,000千円	500,000千円

(連結損益計算書関係)

## ※1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
	1,074,150千円	1,063,117千円

## ※2 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
機械装置及び運搬具	18,779千円	3,446千円
工具、器具及び備品	87	—
土地	155,487	—
合計	174,354千円	3,446千円

## ※3 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
建物及び構築物	32,921千円	77,029千円
機械装置及び運搬具	7,360	6,620
工具、器具及び備品	5,122	435
合計	45,403千円	84,085千円

(連結包括利益計算書関係)

## ※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	
	その他有価証券評価差額金			
当期発生額		53,319千円		38,367千円
組替調整額		—		—
税効果調整前		53,319		38,367
税効果額		△19,252		14,579
その他有価証券評価差額金		34,066千円		52,946千円
土地評価差額金				
当期発生額		—千円		—千円
組替調整額		—		—
税効果調整前		—		—
税効果額		—		145,228
土地評価差額金		—千円		145,228千円
為替換算調整勘定				
当期発生額		2,309,728千円		2,087,192千円
組替調整額		—		—
税効果調整前		2,309,728		2,087,192
税効果額		—		—
為替換算調整勘定		2,309,728千円		2,087,192千円
退職給付に係る調整額				
当期発生額		—千円		△196,828千円
組替調整額		—		342,464
税効果調整前		—		145,636
税効果額		—		668,339
退職給付に係る調整額		—千円		813,976千円
持分法適用会社に対する持分相当額				
当期発生額		383,335千円		196,265千円
その他の包括利益合計		2,727,130千円		3,295,608千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	67,299,522	—	—	67,299,522

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	66,252	12,808	—	79,060

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 12,808株

## 3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成24年ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	34,560
	平成25年ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	23,421
合計			—	—	—	—	57,981

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	268,933	4.00	平成25年3月31日	平成25年6月27日
平成25年11月7日 取締役会	普通株式	268,912	4.00	平成25年9月30日	平成25年12月2日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	336,102	5.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	67,299,522	—	—	67,299,522

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	79,060	6,727	—	85,787

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 6,727株



## 3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成24年ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	34,560
	平成25年ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	31,062
	平成26年ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	22,260
合計			—	—	—	—	87,882

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	336,102	5.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日
平成26年11月6日 取締役会	普通株式	336,086	5.00	平成26年9月30日	平成26年12月1日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	336,068	5.00	平成27年3月31日	平成27年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## ※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
現金及び預金	4,424,339千円	6,173,518千円
現金及び現金同等物	4,424,339千円	6,173,518千円

(リース取引関係)

## 1 ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、車体シール部品部門及びホース部品部門における生産設備（機械及び装置）、その他事業部門における車両運搬具であります。

## 2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
1年以内	10,724千円	20,195千円
1年超	10,187	23,637
合計	20,911千円	43,832千円

## (金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に自動車用部品の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行等金融機関からの借入）を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、社内規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、社内規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っています。

支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。借入金の使途は、運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、特定融資枠（コミットメント・ライン）30億円には、財務制限条項並びに担保制限条項があり、抵触した場合は期限の利益を喪失するリスクがあります。

デリバティブ取引は、借入金等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

## ① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について、各事業部門における主管部署が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、社内規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

## ② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社及び一部の連結子会社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

## ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、資金担当部署である経理部門が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により、流動性リスクを管理しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## (5) 信用リスクの集中

当連結会計年度における当社グループの連結売上高の約62%が、大口顧客に対するものであることから、営業債権についても大口顧客に集中しております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません。（注2）を参照ください。）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	4,424,339	4,424,339	—
(2) 受取手形及び売掛金	17,188,425	17,188,425	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	243,930	243,930	—
資産計	21,856,695	21,856,695	—
(1) 支払手形及び買掛金	8,245,306	8,245,306	—
(2) 短期借入金	4,452,772	4,452,772	—
(3) 長期借入金	4,075,132	4,084,276	9,144
負債計	16,773,211	16,782,355	9,144

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

## 資産

## (1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

## 負債

## (1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

## デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。詳細は、「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	3,551,002

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

## (注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,424,339	—	—	—
受取手形及び売掛金	17,188,425	—	—	—
合計	21,612,765	—	—	—

## (注4) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	4,452,772	—	—	—	—	—
長期借入金	682,950	384,304	854,598	872,680	772,080	508,520
合計	5,135,722	384,304	854,598	872,680	772,080	508,520

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に自動車用部品の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行等金融機関からの借入）を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、社内規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、社内規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っています。

支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。借入金の用途は、運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、特定融資枠（コミットメント・ライン）30億円には、財務制限条項並びに担保制限条項があり、抵触した場合は期限の利益を喪失するリスクがあります。

デリバティブ取引は、借入金等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

## ① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について、各事業部門における主管部署が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、社内規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

## ② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社及び一部の連結子会社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

## ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、資金担当部署である経理部門が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により、流動性リスクを管理しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## (5) 信用リスクの集中

当連結会計年度における当社グループの連結売上高の約55%が、大口顧客に対するものであることから、営業債権についても大口顧客に集中しております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません。（(注2)を参照ください。）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	6,173,518	6,173,518	—
(2) 受取手形及び売掛金	21,160,747	21,160,747	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	318,060	318,060	—
資産計	27,652,326	27,652,326	—
(1) 支払手形及び買掛金	8,828,246	8,828,246	—
(2) 短期借入金	6,762,871	6,762,871	—
(3) 長期借入金	4,890,571	4,899,258	8,687
負債計	20,481,688	20,490,375	8,687

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

## 資産

## (1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

## 負債

## (1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

## デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載してあります。詳細は、「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	4,905,332

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	6,173,518	—	—	—
受取手形及び売掛金	21,160,747	—	—	—
合計	27,334,266	—	—	—

(注4) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	6,762,871	—	—	—	—	—
長期借入金	630,400	1,866,796	1,148,043	747,332	257,000	241,000
合計	7,393,271	1,866,796	1,148,043	747,332	257,000	241,000

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成26年3月31日)

その他有価証券

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
① 株式	238,599	111,183	127,415
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	238,599	111,183	127,415
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
① 株式	5,331	5,610	△279
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	5,331	5,610	△279
合計	243,930	116,794	127,135

当連結会計年度(平成27年3月31日)

その他有価証券

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
① 株式	312,690	120,817	191,872
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	312,690	120,817	191,872
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
① 株式	5,370	5,664	△293
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	5,370	5,664	△293
合計	318,060	126,481	191,578

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(平成26年3月31日)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計 の方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額(千円)	契約額のうち 1年超(千円)	時価(千円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	406,000	113,200	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成27年3月31日)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計 の方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額(千円)	契約額のうち 1年超(千円)	時価(千円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	113,200	34,400	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。



## (退職給付関係)

## 1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は確定給付型の制度として、企業年金基金制度（積立型制度）及び退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

なお、一部の連結子会社は厚生年金基金制度（複数事業主制度）及び確定拠出型の年金制度を採用しており、一部の連結子会社が加入する複数事業主制度の厚生年金基金制度については、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度のため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

また、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法（主として、期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により、退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
退職給付債務の期首残高	9,323,738	8,786,489
会計方針の変更による累積的影響額	—	667,814
会計方針の変更を反映した期首残高	9,323,738	9,454,304
勤務費用	246,172	261,358
利息費用	119,089	57,425
数理計算上の差異の発生額	△346,688	586,648
退職給付の支払額	△555,822	△555,837
その他	—	△320,924
退職給付債務の期末残高	8,786,489	9,482,974

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
年金資産の期首残高	4,938,515	5,338,304
期待運用収益	64,201	69,398
数理計算上の差異の発生額	34,154	393,435
事業主からの拠出額	857,256	810,679
退職給付の支払額	△555,822	△555,837
年金資産の期末残高	5,338,304	6,055,980

## (3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	839,210	912,327
退職給付費用	116,188	117,344
退職給付の支払額	△76,199	△74,597
会計基準変更時差異の未処理額	21,539	—
その他	11,588	—
退職給付に係る負債の期末残高	912,327	955,075



## (4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	8,786,489	9,482,974
年金資産	△5,338,304	△6,055,980
	3,448,185	3,426,994
非積立型制度の退職給付債務	912,327	955,075
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,360,512	4,382,069
退職給付に係る負債	4,360,512	4,382,069
退職給付に係る資産	—	—
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,360,512	4,382,069

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

## (5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
勤務費用	246,172	261,358
利息費用	119,089	57,425
期待運用収益	△64,201	△69,398
数理計算上の差異の費用処理額	543,609	374,856
過去勤務費用の費用処理額	△53,930	△53,930
割増退職金	9,634	79,199
簡便法で計算した退職給付費用	116,188	117,344
確定給付制度に係る退職給付費用	916,561	766,855

## (6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
過去勤務費用	—	△53,930
数理計算上の差異	—	178,028
会計基準変更時差異	—	21,539
合計	—	145,636

## (7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
未認識過去勤務費用	△215,720	△161,790
未認識数理計算上の差異	1,912,182	1,734,155
会計基準変更時差異の未処理額	21,539	—
合計	1,718,001	1,572,365

## (8) 年金資産に関する事項

## ①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
債券	56%	41%
株式	—	6%
一般勘定	—	45%
現金及び預金	44%	2%
その他	—	6%
合計	100%	100%

## ②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
割引率	1.3%	0.3%
長期期待運用収益率	1.3%	1.3%

## 3. 確定拠出制度

一部の連結子会社の確定拠出制度（確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度を含む。）への要拠出額（前連結会計年度56,457千円、当連結会計年度58,842千円）であり、同額を費用処理しております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は以下のとおりであります。

## (1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	(千円)	
	前連結会計年度 平成25年3月31日現在	当連結会計年度 平成26年3月31日現在
年金資産の額	32,316,881	33,178,846
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額（注）	45,527,385	45,192,367
差引額	△13,210,503	△12,013,520

（注）前連結会計年度においては「年金財政計算上の給付債務の額」と掲記していた項目であります。

## (2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 2.6%（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

当連結会計年度 2.7%（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

## (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高（前連結会計年度12,757,965千円、当連結会計年度12,209,207千円）、繰越不足金（前連結会計年度452,538千円、当連結会計年度452,538千円）、当連結会計年度剰余金648,224千円であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しておりません。

(ストック・オプション等関係)

## 1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
販売費及び一般管理費の株式報酬費用	30,861千円	29,901千円

## 2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

## (1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	平成24年7月25日	平成25年7月24日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役4名、当社執行役員12名	当社取締役4名、当社執行役員12名
株式の種類及び付与数	普通株式 78,000株	普通株式 63,000株
付与日	平成24年8月29日	平成25年8月28日
権利確定条件	権利確定条件は付されていない。	権利確定条件は付されていない。
対象勤務期間	各事業年度につき、前事業年度に関する定時株主総会終結後から当該事業年度に関する定時株主総会終結時までの期間	各事業年度につき、前事業年度に関する定時株主総会終結後から当該事業年度に関する定時株主総会終結時までの期間
権利行使期間	平成24年8月30日～平成54年8月29日	平成25年8月29日～平成55年8月28日

会社名	提出会社
決議年月日	平成26年7月23日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役4名、当社執行役員12名
株式の種類及び付与数	普通株式 67,000株
付与日	平成26年8月27日
権利確定条件	権利確定条件は付されていない。
対象勤務期間	各事業年度につき、前事業年度に関する定時株主総会終結後から当該事業年度に関する定時株主総会終結時までの期間
権利行使期間	平成26年8月28日～平成56年8月27日

## (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成27年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

## ① ストック・オプションの数

会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成24年7月25日	平成25年7月24日	平成26年7月23日
権利確定前(株)			
前連結会計年度末	—	—	—
付与	—	—	67,000
失効	—	—	—
権利確定	—	—	67,000
未確定残	—	—	—
権利確定後(株)			
前連結会計年度末	72,000	61,000	—
権利確定	—	—	67,000
権利行使	—	—	—
失効	—	—	—
未行使残	72,000	61,000	67,000

## ② 単価情報

会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成24年7月25日	平成25年7月24日	平成26年7月23日
権利行使価格(円)	1	1	1
行使時平均株価(円)	—	—	—
付与日における公正な評価単価(円)	480	501	443

## 3. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

(2) 主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性	(注) 1	42.65%
予想残存期間	(注) 2	4.5年
予想配当	(注) 3	9円/株
無リスク利率	(注) 4	0.14%

(注) 1. 4.5年間(平成22年2月26日から平成26年8月27日まで)の株価実績に基づき算定しました。

2. 過去の取締役の平均的な在任期間から、現在の在任取締役の平均在任期間を減じて算出しております。

3. 平成26年3月期の配当実績によります。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

## 4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の内訳

## (1) 流動の部

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	309,596千円	291,021千円
未払事業税	66,024	66,892
棚卸資産評価損	37,286	28,101
売掛金見積計上	10,045	6,770
その他	90,607	46,408
繰延税金資産小計	513,559	439,195
評価性引当額	△13,407	△12,422
繰延税金資産合計	500,152千円	426,772千円

## (2) 固定の部

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
投資有価証券等評価損	2,458千円	2,343千円
退職給付に係る負債	930,410	1,509,518
減価償却費	108,300	43,469
繰越欠損金	2,595,712	3,342,494
資産除去債務	26,699	24,116
その他	134,840	193,592
繰延税金資産小計	3,798,420	5,115,536
評価性引当額	△3,310,111	△3,530,771
繰延税金資産合計	488,308	1,584,764
繰延税金負債との相殺	△269,657	△892,383
繰延税金資産純額	218,651千円	692,381千円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	401,043千円	352,008千円
その他	208,116	835,354
繰延税金負債合計	609,159	1,187,362
繰延税金資産との相殺	△269,657	△892,383
繰延税金負債純額	339,502千円	294,979千円
再評価に係る繰延税金負債	1,987,948千円	1,842,720千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率 (調整)	37.8%	35.4%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.1%	0.0%
住民税均等割等	0.1%	0.2%
評価性引当額の増減	4.3%	3.1%
持分法投資損益	△1.1%	0.4%
税額控除	△0.1%	△0.3%
在外子会社の税率差異	0.3%	△4.8%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.4%	1.4%
その他	△1.0%	2.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.8%	37.7%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.4%から平成27年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については32.8%に、平成28年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、31.9%となります。

この税率変更により繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が66,895千円減少し、法人税等調整額が15,715千円、その他有価証券評価差額金が3,726千円、退職給付に係る調整累計額が54,906千円それぞれ増加しております。

また、再評価に係る繰延税金負債は145,228千円減少し、土地再評価差額金が同額増加しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

## 1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、自動車用並びにその他の使用に供するゴム及び合成樹脂製品の製造販売をしております。当社のマネジメントにおける意思決定及び業績評価は地域別に行なわれており、各地域の地域長及び拠点長がその責務を負っております。したがって、当社の報告セグメントは生産・販売体制を基礎とした所在地別のセグメントから構成されており、「日本」、「米州」及び「アジア」の3つを報告セグメントとしております。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

なお、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

また、セグメント間の内部収益及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

## 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額
	日本	米州	アジア	計		
売上高						
外部顧客への売上高	45,614,845	9,304,882	19,623,840	74,543,568	—	74,543,568
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,081,421	17,767	456,755	3,555,944	△3,555,944	—
計	48,696,267	9,322,649	20,080,596	78,099,513	△3,555,944	74,543,568
セグメント利益 又は損失(△)	4,684,269	△705,469	3,197,266	7,176,066	116,884	7,292,950
セグメント資産	46,019,258	8,434,048	18,427,284	72,880,591	△11,841,658	61,038,933
その他の項目						
減価償却費	1,053,943	344,517	568,592	1,967,053	△6,848	1,960,204
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	875,693	1,225,468	1,972,809	4,073,970	—	4,073,970

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益の消去であります。

(2)セグメント資産の調整額△11,841,658千円は、主として債権の相殺消去△6,990,069千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



## II 当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

## 1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、自動車用並びにその他の使用に供するゴム及び合成樹脂製品の製造販売をしております。当社のマネジメントにおける意思決定及び業績評価は地域別に行なわれており、各地域の地域長及び拠点長がその責務を負っております。したがって、当社の報告セグメントは生産・販売体制を基礎とした所在地別のセグメントから構成されており、「日本」、「米州」及び「アジア」の3つを報告セグメントとしております。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

なお、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

また、セグメント間の内部収益及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

会計方針の変更に記載のとおり、当連結会計年度より、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当連結会計年度の「日本」のセグメント利益が34,754千円増加しております。

## 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額
	日本	米州	アジア	計		
売上高						
外部顧客への売上高	43,361,072	12,719,303	20,055,387	76,135,763	—	76,135,763
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,955,529	47,155	557,984	3,560,669	△3,560,669	—
計	46,316,601	12,766,459	20,613,371	79,696,433	△3,560,669	76,135,763
セグメント利益 又は損失(△)	3,976,556	△134,704	3,053,559	6,895,410	34,842	6,930,253
セグメント資産	51,339,298	11,074,597	24,517,375	86,931,271	△15,559,672	71,371,598
その他の項目						
減価償却費	1,069,861	403,338	764,598	2,237,798	△2,085	2,235,713
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	1,166,037	1,708,183	1,595,550	4,469,772	—	4,469,772

(注)1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益の消去であります。

(2)セグメント資産の調整額△15,559,672千円は、主として債権の相殺消去△4,512,787千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 【関連情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

## 1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	車体シール 部品	防振部品	ホース部品	ブレーキ・ 型物部品	その他製品	その他事業	合計
外部顧客への売上高	39,488,403	13,188,439	9,704,975	4,837,464	6,373,891	950,394	74,543,568

## 2 地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位：千円)

日本	米州	アジア	その他	合計
45,099,828	9,354,096	19,787,692	301,950	74,543,568

- (注) 1 売上高は、国又は地域における売上高であります。  
 2 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。  
 3 各区分に属する主な国又は地域  
 (1) 米州 …………… 米国、メキシコ  
 (2) アジア …………… 中国、台湾、タイ、インドネシア  
 (3) その他の地域 … イギリス他

## (2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米州	アジア	合計
15,429,611	2,495,888	6,231,183	24,156,683

## 3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
東洋ゴム工業(株)	10,963,851	日本
日産自動車(株)	10,245,314	日本

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

## 1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	車体シール 部品	防振部品	ホース部品	ブレーキ・ 型物部品	その他製品	その他事業	合計
外部顧客への売上高	42,451,768	12,058,369	9,563,422	4,696,620	6,469,877	895,704	76,135,763

## 2 地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位：千円)

日本	米州	アジア	その他	合計
42,775,550	12,772,093	20,224,822	363,296	76,135,763

- (注) 1 売上高は、国又は地域における売上高であります。  
 2 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。  
 3 各区分に属する主な国又は地域  
 (1) 米州 …………… 米国、メキシコ  
 (2) アジア …………… 中国、台湾、タイ、インドネシア  
 (3) その他の地域 … イギリス他

## (2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米州	アジア	合計
15,415,772	3,950,941	7,780,804	27,147,518

## 3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
東洋ゴム工業(株)	9,142,763	日本
日産自動車(株)	8,374,498	日本

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	日本 (ホース部品)	米州 (車体シール部品)	合計
当期償却額	32,172	22,796	54,969
当期末残高	72,389	91,184	163,573

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

	日本 (ホース部品)	米州 (車体シール部品)	合計
当期償却額	32,172	22,796	54,969
当期末残高	40,216	68,388	108,604

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

## 1 関連当事者との取引

## (1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

## (ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千レアル)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
非連結 子会社	KINUGAWA BRASIL Ltda.	ブラジル 国	8,000	自動車部品の 製造・販売	所有直接 99.00	当社製品の 製造	債務保証	833,192	—	—

(注) 子会社の資金調達のための銀行借入に対して当社が債務保証を行っているものであり、保証料は受領していません。

## (イ) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社	日産自動車㈱	横浜市 神奈川区	605,813	自動車及び自 動車部品の製 造・販売	被所有直接 20.38	当社製品の 販売	自動車部品の 販売	10,245,314	売掛金	1,619,332
法人主 要株主	東洋ゴム工業㈱	大阪市 西区	30,484	各種タイヤ及 び各種ゴム製 品、その他化 学製品の製 造・販売	被所有直接 11.97 所有直接 0.02	当社製品の 販売	自動車部品の 販売	10,963,851	売掛金	1,758,045

(注) 1. 取引金額は消費税等を含んでおらず、期末残高は消費税等を含んでおります。

2. 日産自動車㈱の議決権の被所有割合20.38%については、退職給付信託口座であります。

(取引条件なし、取引条件の決定方針等)

当社製品の販売については、価格その他の取引条件は、一般的な取引条件を参考に決定しております。

## (ウ) 連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

## (エ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他 の関係 会社の 子会社	日産車体㈱	神奈川県 平塚市	7,904	各種自動車及 び部分品の開 発・製造	—	当社製品の 販売	自動車部品の 販売	2,326,325	売掛金	493,847

(注) 取引金額は消費税等を含んでおらず、期末残高は消費税等を含んでおります。

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

当社製品の販売については、価格その他の取引条件は、一般的な取引条件を参考に決定しております。

## (オ) 連結財務諸表提出会社の役員及び個人主要株主(個人の場合に限る)等

該当事項はありません。

## (2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万CNY)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他 の関係 会社の 子会社	東風汽車 有限公司	中国湖北 省武漢市	16,700	自動車及び部 品製造・販売	—	製品の販売	自動車部品の 販売	9,194,574	売掛金	2,003,049

(注) 取引金額は消費税等を含んでおらず、期末残高は消費税等を含んでおります。

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

製品の販売については、価格その他の取引条件は、一般的な取引条件を参考に決定しております。

## 2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

該当事項はありません。

## (2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

## 1 関連当事者との取引

## (1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

## (ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
非連結 子会社	KINUGAWA BRASIL Ltda.	ブラジル 国	20,600 千リアル	自動車部品の 製造・販売	所有直接 100.00	当社製品の 製造	債務保証	977,407	—	—
非連結 子会社	Limited liability company Kinugawa RUS	ロシアウ ドムルト 共和国	40,000 千ルーブル	自動車部品の 製造・販売	所有直接 100.00	当社製品の 製造	資金の貸付	584,585	短期貸付金	—

(注) 子会社の資金調達のための銀行借入に対して当社が債務保証を行っているものであり、保証料は受領していません。

## (イ) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社	日産自動車㈱	横浜市 神奈川区	605,813	自動車及び自 動車部品の製 造・販売	被所有直接 20.38	当社製品の 販売	自動車部品の 販売	8,374,498	売掛金 受取手形	727,656 621,000
法人主 要株主	東洋ゴム工業㈱	大阪市 西区	30,484	各種タイヤ及 び各種ゴム製 品、その他化 学製品の製 造・販売	被所有直接 11.97 所有直接 0.02	当社製品の 販売	自動車部品の 販売	9,142,763	売掛金	1,699,942

(注) 1. 取引金額は消費税等を含んでおらず、期末残高は消費税等を含んでおります。

2. 日産自動車㈱の議決権の被所有割合20.38%については、退職給付信託口座であります。

(取引条件ないし、取引条件の決定方針等)

当社製品の販売については、価格その他の取引条件は、一般的な取引条件を参考に決定しております。

## (ウ) 連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

## (エ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他 の関係 会社の 子会社	日産車体㈱	神奈川県 平塚市	7,904	各種自動車及 び部分品の開 発・製造	—	当社製品の 販売	自動車部品の 販売	2,274,293	売掛金 受取手形	273,000 220,000

(注) 取引金額は消費税等を含んでおらず、期末残高は消費税等を含んでおります。

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

当社製品の販売については、価格その他の取引条件は、一般的な取引条件を参考に決定しております。

## (オ) 連結財務諸表提出会社の役員及び個人主要株主(個人の場合に限る)等

該当事項はありません。

## (2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金 (百万CNY)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他 の関係 会社の 子会社	東風汽車 有限公司	中国湖北 省武漢市	16,700	自動車及び部 品製造・販売	—	製品の販売	自動車部品の 販売	7,403,784	売掛金	1,302,089

(注) 取引金額は消費税等を含んでおらず、期末残高は消費税等を含んでおります。

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

製品の販売については、価格その他の取引条件は、一般的な取引条件を参考に決定しております。

## 2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

該当事項はありません。

## (2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり当期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

前連結会計年度 (平成26年3月31日)		当連結会計年度 (平成27年3月31日)	
1株当たり純資産額	453.90円	1株当たり純資産額	546.67円
算定上の基礎		算定上の基礎	
連結貸借対照表の純資産の部の合計額	31,535,005千円	連結貸借対照表の純資産の部の合計額	38,021,275千円
普通株式に係る純資産額	30,511,537千円	普通株式に係る純資産額	36,744,051千円
差額の主な内訳		差額の主な内訳	
新株予約権	57,981千円	新株予約権	87,882千円
少数株主持分	965,486千円	少数株主持分	1,189,341千円
普通株式の発行済株式数	67,299,522株	普通株式の発行済株式数	67,299,522株
普通株式の自己株式数	79,060株	普通株式の自己株式数	85,787株
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	67,220,462株	1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	67,213,735株

前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)		当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	
1株当たり当期純利益	69.83円	1株当たり当期純利益	63.81円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	69.73円	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	63.66円
算定上の基礎		算定上の基礎	
連結損益計算書上の当期純利益	4,694,301千円	連結損益計算書上の当期純利益	4,289,397千円
普通株式に係る当期純利益	4,694,301千円	普通株式に係る当期純利益	4,289,397千円
普通株主に帰属しない金額	—千円	普通株主に帰属しない金額	—千円
普通株式の期中平均株式数	67,227,042株	普通株式の期中平均株式数	67,216,986株
当期純利益調整額	—千円	当期純利益調整額	—千円
(うち支払利息(税額相当額控除後))	(—千円)	(うち支払利息(税額相当額控除後))	(—千円)
普通株式増加数(新株予約権)	98,986株	普通株式増加数(新株予約権)	164,442株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—

(注)「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。

この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が、9円42銭減少し、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額はそれぞれ、0円52銭増加しております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ⑤ 【連結附属明細表】

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,452,772	6,762,871	0.83	—
1年以内に返済予定の長期借入金	682,950	630,400	0.84	—
1年以内に返済予定のリース債務	23,028	20,156	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く)	3,392,182	4,260,171	2.67	平成28年～平成32年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く)	50,140	31,027	—	平成28年～平成35年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	8,601,074	11,704,626	—	—

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
 2 リース債務の「平均利率」については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載を省略しております。  
 3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,866,796	1,148,043	747,332	257,000
リース債務	10,281	7,328	5,348	3,363

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	17,682,763	36,494,357	55,037,611	76,135,763
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (千円)	1,136,274	2,987,561	5,033,827	7,067,472
四半期(当期)純利益 (千円)	694,114	1,902,512	3,158,548	4,289,397
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	10.33	28.30	46.99	63.81

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	10.33	17.98	18.69	16.82



## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	163,059	199,793
受取手形	505,853	1,394,293
売掛金	※3 9,967,315	※3 6,549,520
商品及び製品	122,039	124,340
仕掛品	41,259	49,212
原材料及び貯蔵品	14,626	18,168
前渡金	11,326	3,124
前払費用	31,175	15,023
繰延税金資産	179,160	145,840
関係会社短期貸付金	529,198	379,364
1年内回収予定の関係会社長期貸付金	—	495,224
未収入金	1,866,687	1,347,763
立替金	773,094	571,127
その他	2,131	1,279
貸倒引当金	△597	△597
流動資産合計	14,206,330	11,293,478
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,257,904	10,894,679
減価償却累計額	△9,169,642	△9,020,955
建物（純額）	2,088,262	1,873,724
構築物	954,135	952,117
減価償却累計額	△873,230	△876,942
構築物（純額）	80,905	75,175
機械及び装置	16,973,526	17,106,489
減価償却累計額	△16,140,860	△16,190,287
機械及び装置（純額）	832,666	916,202
車両運搬具	63,644	63,592
減価償却累計額	△62,111	△61,232
車両運搬具（純額）	1,533	2,360
工具、器具及び備品	12,730,565	12,789,046
減価償却累計額	△12,437,956	△12,455,243
工具、器具及び備品（純額）	292,608	333,802
土地	5,129,414	5,129,414
建設仮勘定	251,174	282,274
有形固定資産合計	※1 8,676,565	※1 8,612,954
無形固定資産		
ソフトウェア	20,466	16,735
電話加入権	15,596	15,596
無形固定資産合計	36,063	32,332

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	149,817	184,057
関係会社株式	12,277,200	14,466,810
関係会社長期貸付金	514,600	5,768,403
繰延税金資産	288,595	720,302
長期未収入金	8,953	8,953
その他	18,855	16,733
貸倒引当金	△8,953	△114,812
投資その他の資産合計	13,249,068	21,050,448
固定資産合計	21,961,697	29,695,735
資産合計	36,168,028	40,989,214
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	587,016	565,396
買掛金	※3 5,056,749	※3 4,506,541
短期借入金	2,914,600	5,941,350
1年内返済予定の長期借入金	※1 664,200	※1 630,400
未払金	81,546	68,708
未払費用	327,282	275,711
未払法人税等	247,811	196,000
賞与引当金	257,677	275,344
預り金	※3 1,774,080	※3 2,193,891
設備関係支払手形	52,343	33,487
その他	25,403	65,038
流動負債合計	11,988,711	14,751,870
<b>固定負債</b>		
長期借入金	※1 785,000	※1 987,600
再評価に係る繰延税金負債	1,006,586	907,065
退職給付引当金	1,772,572	2,200,198
資産除去債務	72,320	72,320
長期未払金	121,325	92,025
固定負債合計	3,757,803	4,259,208
負債合計	15,746,515	19,011,078

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,654,585	5,654,585
資本剰余金		
その他資本剰余金	841,575	841,575
資本剰余金合計	841,575	841,575
利益剰余金		
利益準備金	221,729	288,948
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	11,815,021	13,153,485
利益剰余金合計	12,036,751	13,442,434
自己株式	△34,487	△37,817
株主資本合計	18,498,425	19,900,777
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	28,229	53,076
土地再評価差額金	1,836,877	1,936,398
評価・換算差額等合計	1,865,106	1,989,475
新株予約権	57,981	87,882
純資産合計	20,421,513	21,978,135
負債純資産合計	36,168,028	40,989,214

## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月 31日)
売上高	※1 37,052,990	※1 33,960,551
売上原価		
製品期首たな卸高	130,609	122,039
当期製品製造原価	33,416,739	30,300,517
合計	33,547,349	30,422,556
製品期末たな卸高	122,039	124,340
製品売上原価	※1 33,425,310	※1 30,298,216
売上総利益	3,627,680	3,662,334
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	394,943	377,789
保管費	113,680	103,705
役員報酬	126,802	136,006
従業員給料及び賞与	620,081	659,344
法定福利及び厚生費	120,997	129,521
退職給付費用	88,302	41,849
賞与引当金繰入額	76,406	75,926
賃借料	71,986	60,746
減価償却費	36,473	33,273
消耗品費	28,721	22,660
研究開発費	52,115	49,172
貸倒引当金繰入額	597	105,859
その他	474,969	467,786
販売費及び一般管理費合計	2,206,078	2,263,644
営業利益	1,421,601	1,398,690
営業外収益		
受取利息	13,683	13,351
受取配当金	※1 2,013,551	※1 1,523,047
固定資産賃貸料	※1 525,865	※1 496,556
為替差益	353,390	783,240
雑収入	164,269	113,911
営業外収益合計	3,070,760	2,930,108
営業外費用		
支払利息	65,289	60,426
固定資産賃貸費用	497,914	465,284
雑損失	26,200	9,124
営業外費用合計	589,405	534,835
経常利益	3,902,957	3,793,963
特別損失		
固定資産除却損	8,577	80,467
建物解体費用	—	91,400
割増退職金	6,669	44,446
子会社株式評価損	—	465,624
その他	263	4,777
特別損失合計	15,509	686,715
税引前当期純利益	3,887,447	3,107,248
法人税、住民税及び事業税	923,431	769,342
法人税等調整額	△11,006	△407,780
法人税等合計	912,425	361,561
当期純利益	2,975,022	2,745,686

## ③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	5,654,585	841,575	841,575	167,945	9,431,628	9,599,574	△27,703	16,068,031	
会計方針の変更による累積的影響額								—	
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,654,585	841,575	841,575	167,945	9,431,628	9,599,574	△27,703	16,068,031	
当期変動額									
剰余金の配当				53,784	△591,629	△537,845		△537,845	
当期純利益					2,975,022	2,975,022		2,975,022	
自己株式の取得							△6,783	△6,783	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	—	—	—	53,784	2,383,392	2,437,177	△6,783	2,430,393	
当期末残高	5,654,585	841,575	841,575	221,729	11,815,021	12,036,751	△34,487	18,498,425	

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	19,306	1,836,877	1,856,184	27,120	17,951,335
会計方針の変更による累積的影響額					—
会計方針の変更を反映した当期首残高	19,306	1,836,877	1,856,184	27,120	17,951,335
当期変動額					
剰余金の配当					△537,845
当期純利益					2,975,022
自己株式の取得					△6,783
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	8,922	—	8,922	30,861	39,784
当期変動額合計	8,922	—	8,922	30,861	2,470,178
当期末残高	28,229	1,836,877	1,865,106	57,981	20,421,513

当事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		自己株式	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計		繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	5,654,585	841,575	841,575	221,729	11,815,021	12,036,751	△34,487	18,498,425
会計方針の変更による累積的影響額					△667,814	△667,814		△667,814
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,654,585	841,575	841,575	221,729	11,147,206	11,368,936	△34,487	17,830,610
当期変動額								
剰余金の配当				67,218	△739,407	△672,188		△672,188
当期純利益					2,745,686	2,745,686		2,745,686
自己株式の取得							△3,330	△3,330
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	—	—	—	67,218	2,006,278	2,073,497	△3,330	2,070,166
当期末残高	5,654,585	841,575	841,575	288,948	13,153,485	13,442,434	△37,817	19,900,777

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	28,229	1,836,877	1,865,106	57,981	20,421,513
会計方針の変更による累積的影響額					△667,814
会計方針の変更を反映した当期首残高	28,229	1,836,877	1,865,106	57,981	19,753,699
当期変動額					
剰余金の配当					△672,188
当期純利益					2,745,686
自己株式の取得					△3,330
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	24,847	99,521	124,368	29,901	154,269
当期変動額合計	24,847	99,521	124,368	29,901	2,224,436
当期末残高	53,076	1,936,398	1,989,475	87,882	21,978,135

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

## 1 有価証券の評価基準及び評価方法

## (1) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

## (2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

## 2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

## (1) 製品・仕掛品・原材料

総平均法

## (2) 貯蔵品

最終仕入原価法

## 3 固定資産の減価償却の方法

減価償却の基準は、機械及び装置のうち合成樹脂製品製造装置の耐用年数を除き法人税法に規定する方法と同一の基準を採用しております。

## (1) 有形固定資産

定率法によっております。

ただし、工具、器具及び備品のうち金型、(株)キヌガワ郡山へ貸与の有形固定資産、平成10年4月以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～50年
機械及び装置	6～14年

また、取得価額が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年で均等償却しております。

平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

## (2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

## 4 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき、当事業年度の負担額を計上しております。



## (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により、それぞれ発生した事業年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

## 5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## 6 ヘッジ会計の方法

## (1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。ただし、ヘッジ会計の要件を満たしており、さらに想定元本、利息の受払条件及び契約期間がヘッジ対象となる借入金と同一である金利スワップについては特例処理を採用しております。

## (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	金利スワップ取引
ヘッジ対象	借入金の支払金利

## (3) ヘッジ方針

金利変動による借入債務の損失可能性を減殺する目的で行っております。

## (4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フローの変動の累計とを比率分析する方法により行っております。

なお、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

## 7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

## (2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

## (会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に基づく割引率から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を繰越利益剰余金に加減しております。

この結果、当事業年度の期首の退職給付引当金が667,814千円増加し、繰越利益剰余金が667,814千円減少しております。また、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ34,754千円増加しております。

なお、当事業年度の1株当たり純資産額は9円42銭減少し、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額はそれぞれ、0円52銭増加しております。

## (表示方法の変更)

## (損益計算書関係)

前事業年度において、「販売費及び一般管理費」の「その他」に含めていた「貸倒引当金繰入額」は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「販売費及び一般管理費」の「その他」に表示していた475,567千円は、「貸倒引当金繰入額」597千円、「その他」474,969千円として組み替えております。

## (貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産は、下記のとおりであります。

## (1) 担保に供している資産(工場財団)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
建物	1,685,682千円	801,881千円
構築物	55,971	44,174
機械及び装置	43,990	13,959
工具、器具及び備品	6	0
土地	4,883,870	1,310,423
合計	6,669,522千円	2,170,438千円

## (2) 上記の担保資産に対応する債務

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金を含む)	393,200千円	251,800千円
(うち工場財団分)	(393,200)	(251,800)

## 2 偶発債務

## 債務保証

金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
TEPRO, INC.	1,162,996千円 (US\$ 11,300千)	1,112,497千円 (US\$ 9,250千)
KINUGAWA(Thailand)CO.,LTD.	156,420 (パーツ 49,500千)	182,655 (パーツ 49,500千)
KINUGAWA MEXICO, S. A. DE C. V.	2,544,080 (US\$ 14,000千) (ペソ 140,000千)	2,987,590 (US\$ 15,668千) (ペソ 140,000千)
PT. KINUGAWA INDONESIA	66,665 (US\$ 647千)	50,424 (US\$ 419千)
Kinugawa Rubber India Private Limited	138,221 (ルピー 70,000千) (US\$ 173千)	232,800 (ルピー 120,000千)
KINUGAWA BRASIL Ltda.	833,192 (リアル 9,000千) (US\$ 4,126千)	977,407 (US\$ 8,126千)
Limited liability company Kinugawa RUS	—	338,678 (ルーブル 80,000千) (US\$ 1,432千)
従業員	33,273	36,468
合計	4,934,849千円	5,918,521千円

## ※3 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
売掛金	5,994,599千円	2,946,934千円
買掛金	1,187,932	1,093,448
預り金	1,739,624	2,155,876

## 4 貸出コミットメントライン契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。事業年度末における貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
貸出コミットメントの総額	3,000,000千円	3,000,000千円
借入実行残高	—	2,500,000
差引額	3,000,000千円	500,000千円

## (損益計算書関係)

※1 関係会社との取引は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	14,558,835千円	12,382,879千円
仕入高	14,372,477	12,901,398
受取配当金	2,010,128	1,519,061
固定資産賃貸料	486,151	453,245

## (有価証券関係)

前事業年度(平成26年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 子会社株式	11,756,560	11,725,036	△31,524
(2) 関連会社株式	520,640	520,640	—
合計	12,277,200	12,245,676	△31,524

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額(千円)
(1) 子会社株式	10,985,520
(2) 関連会社株式	520,640
合計	11,506,160

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度(平成27年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 子会社株式	13,946,170	15,244,049	1,297,878
(2) 関連会社株式	520,640	520,640	—
合計	14,466,810	15,764,689	1,297,878

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額(千円)
(1) 子会社株式	13,175,130
(2) 関連会社株式	520,640
合計	13,695,770

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

なお、当事業年度において減損処理を行い、子会社株式評価損465,624千円を計上しております。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の内訳

## (1) 流動の部

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	91,217千円	90,312千円
未払事業税	17,930	28,042
棚卸資産評価損	18,028	13,713
その他	65,392	26,194
繰延税金資産小計	192,568	158,263
評価性引当額	△13,407	△12,422
繰延税金資産合計	179,160千円	145,840千円

## (2) 固定の部

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
関係会社株式評価損	2,237,488千円	2,164,802千円
退職給付引当金	627,490	702,461
減価償却費	49,429	42,703
その他	95,050	135,759
繰延税金資産小計	3,009,459	3,045,726
評価性引当額	△2,705,394	△2,300,561
繰延税金資産合計	304,064千円	745,165千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	15,469千円	24,862千円
繰延税金負債合計	15,469千円	24,862千円
繰延税金資産(純額)	288,595千円	720,302千円
再評価に係る繰延税金負債	1,006,586千円	907,065千円

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	37.8%	35.4%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.1%	0.1%
住民税均等割等	0.1%	0.2%
評価性引当額の増減	△0.7%	△13.0%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△18.7%	△17.0%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.3%	3.0%
税額控除	△0.1%	△0.6%
その他	4.7%	3.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.5%	11.6%

## 3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.4%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については32.8%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、31.9%となります。

この税率変更により繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が89,991千円減少し、法人税等調整額が92,719千円、その他有価証券評価差額金が2,727千円、それぞれ増加しております。

また、再評価に係る繰延税金負債は99,521千円減少し、土地再評価差額金が同額増加しております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④ 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	11,257,904	19,296	382,521	10,894,679	9,020,955	156,723	1,873,724
構築物	954,135	—	2,018	952,117	876,942	5,622	75,175
機械及び装置	16,973,526	351,136	218,173	17,106,489	16,190,287	263,646	916,202
車両運搬具	63,644	2,388	2,440	63,592	61,232	1,561	2,360
工具、器具及び備品	12,730,565	329,586	271,105	12,789,046	12,455,243	285,046	333,802
土地	5,129,414 (2,843,463)	—	—	5,129,414 (2,843,463)	—	—	5,129,414
建設仮勘定	251,174	1,003,843	972,743	282,274	—	—	282,274
有形固定資産計	47,360,366	1,706,251	1,849,002	47,217,615	38,604,660	712,599	8,612,954
無形固定資産							
ソフトウェア	44,814	5,269	4,189	45,895	29,159	9,000	16,735
電話加入権	15,596	—	—	15,596	—	—	15,596
無形固定資産計	60,411	5,269	4,189	61,492	29,159	9,000	32,332
長期前払費用	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 有形固定資産の主な増減は、次のとおりであります。

## 増 加

機械及び装置	車体シール部品製造設備	305,501千円
	防振部品製造設備	29,558
	ブレーキ・形物部品製造設備	31,951
工具、器具及び備品	金型	282,119
建設仮勘定	車体シール部品製造設備	519,349
	防振部品製造設備	69,978
	ブレーキ・形物部品製造設備	202,109
	金型	204,706

## 減 少

建物	本社別館	381,621
機械及び装置	車体シール部品製造設備	142,951
	防振部品製造設備	39,126
工具、器具及び備品	金型	168,446

2. ( )内は、土地の再評価に関する法律（平成10年法律第34号）により行った土地の再評価前の帳簿価額との差額であります。

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	9,550	105,859	—	—	115,410
賞与引当金	257,677	275,344	257,677	—	275,344

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。



## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 (特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  みずほ信託銀行株式会社 — 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりである。 <a href="http://www.kinugawa-rubber.co.jp/">http://www.kinugawa-rubber.co.jp/</a>
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式については、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度 第75期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) 平成26年6月25日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書

事業年度 第75期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) 平成26年6月26日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第76期第1四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日) 平成26年8月7日関東財務局長に提出。

第76期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日) 平成26年11月10日関東財務局長に提出。

第76期第3四半期(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日) 平成27年2月12日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書 平成26年7月1日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4（公認会計士の異動）の規定に基づく臨時報告書 平成26年7月1日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

鬼怒川ゴム工業株式会社  
取締役会 御中

平成27年 6 月25日

仰星監査法人

代表社員  
業務執行社員                      公認会計士    川    崎                      浩    ㊞

代表社員  
業務執行社員                      公認会計士    金    井    匡    志    ㊞

業務執行社員                      公認会計士    岩    渕                      誠    ㊞

### ＜財務諸表監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている鬼怒川ゴム工業株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、鬼怒川ゴム工業株式会社及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、鬼怒川ゴム工業株式会社の平成27年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、鬼怒川ゴム工業株式会社が平成27年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

鬼怒川ゴム工業株式会社  
取締役会 御中

平成27年6月25日

仰星監査法人

代表社員  
業務執行社員                      公認会計士    川    崎                      浩    ㊞

代表社員  
業務執行社員                      公認会計士    金    井    匡    志    ㊞

業務執行社員                      公認会計士    岩    渕                      誠    ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている鬼怒川ゴム工業株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第76期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、鬼怒川ゴム工業株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。